2年目迎える日本リーグ

11日、東京、大阪で前期戦の火ぶた

日本ハンドボール界をささえる日本リーグ。その闘志と意欲は炎のように燃えたぎる――シンボルマークの全国公募で入選作者となった和田松夫さん(大阪)は、そのデザイン(右掲)をこう説明する。

2年目を迎えた日本リーグは6月11日東京、大阪で開幕。

初の二期制を採用し、前期は7月17日まで18都市で、後期は10月9日から11月27日まで22都市で国内最高レベルの激突を展開する。

男子は、2連勝を目指す大同特殊鋼(愛知)を筆頭に、ヨーロッパ帰りの全日本チャンピオン・湧永薬品(広島)、力から技へイメージチェンジのダークホース本田技研鈴鹿(三重)、即戦力を加え意欲充分の大崎電気(埼玉)と三景(東京)、団結かたい大阪イーグルス(大阪)新たな闘志をのぞかせる日新製鋼(広島、旧チーム名・日新製鋼呉)待望のリーグ入りをはたした三菱レ大竹(広島)のチーム。

女子は、昨年度、日本リーグ優勝をふくむ全国4大タイトル独占の立石電機(熊本)をはじめ、実力ナンバーワンといわれる日本ビクター(茨城)、チーム結成10年目を迎えたブラザー工業(愛知)、秘かに野望を燃やすジャスコ(三重)と日立栃木(栃木)、巻き返しの態勢をととのえた大崎電気(埼玉)、注目の新進大和銀行(大阪)のトップエイト。

いずれも「リーグチャンピオン」の栄光へなみなみならぬファイトを燃やしている。

各チームの主力による華麗、豪快、軽妙な個人技も、大きなみどころだ。日本協会が、モスクワ・オリンピックへ、この大会を国内での最初のステップにしていることも、各チーム、各選手をいっそう奮いたたせている。

また、男女合わせて40人のフレッシュマンが登場するのも興味深い。個人表彰では、新たに「最高得点率(シュート率)賞」が設けられた。

シュート率を割り出す試みは、全国大会では初めてで、このため日本リーグは、特別記録用紙の制定とスコアラー制度を今シーズンから採用している。これまでの得点王表彰もつづけられる。

なお、日本リーグでは、前後期合わせて九万人のファン動員を目標としている。

別掲日程のうち、参院選挙の関係で7月3日または10日の変更があるかもしれない。

日本ハンドボールリーグ前期日程

日	会場	時刻	対戦
6月11日(土)	東京体育館	17:00	大同特殊鋼―三菱レ大竹
		18:30	大崎電気―三景
	大阪市中央体育館	15:30	□ブラザー工業―ジャスコ
		16:40	□日立栃木―大和銀行
		17:50	本田技研鈴鹿―日新製鋼
12日(日)	東京体育館	13:25	□東京重機―大崎電気
		14:35	三景―大同特殊鋼
			(東京12ｃｈＴＶ14:00～15:54)
	大阪市中央体育館	13:00	□立石電機―日立栃木
		14:10	□大和銀行―ブラザー工業
		15:30	大阪イーグルス―本田技研鈴鹿
25日(土)	広島県立体育館	13:00	日新製鋼―三菱レ大竹
		14:30	□東京重機―日立栃木
		15:50	湧永薬品―大阪イーグルス
	熊本市体育館	14:00	大同特殊鋼―大崎電気
		15:20	□立石電機―大和銀行
		16:30	本田技研鈴鹿―三景
26日(日)	山口県体育館	13:00	□日本ビクター―東京重機
		14:10	大阪イーグルス―大崎電気
		15:30	日新製鋼―大同特殊鋼
	熊本市体育館	12:00	本田技研鈴鹿―三菱レ大竹
		13:20	□立石電機―ジャスコ
	福岡市民体育館	14:00	□日立栃木―大崎電気
		15:20	湧永薬品―三景
7月1日(金)	市川市スポーツセンター	16:30	□大崎電気―ジャスコ
		17:40	大崎電気―日新製鋼
		19:00	大同特殊鋼―大阪イーグルス
2日(土)	山梨県体育館	14:00	□ジャスコ―大和銀行
		15:30	大崎電気―湧永薬品
	静岡草薙体育館	14:30	□ブラザー工業―立石電機
		15:40	三菱レ大竹―大阪イーグルス
		17:00	□日本ビクター―大崎電気
3日(日)	水海道二高体育館	9:45	湧永薬品―三菱レ大竹
		11:10	□日本ビクター―ブラザー工業
9日(土)	大垣スポーツセンター	15:00	□大和銀行―東京重機
		16:10	□ジャスコ―日本ビクター
		17:20	三菱レ大竹―大崎電気
10日(日)	四日市体育館	13:30	□大和銀行―日本ビクター
		14:40	□ジャスコ―東京重機
		15:50	本田技研鈴鹿―湧永薬品
	栃木県体育館	13:10	□立石電機―大崎電気
		14:20	□日立栃木―ブラザー工業
		15:30	三景―日新製鋼
16日(土)	京都府立体育館	14:00	□ブラザー工業―大崎電気
		15:15	□東京重機―立石電機
		16:30	日新製鋼―湧永薬品
	豊橋市体育館	15:00	三景―大阪イーグルス
		16:20	大同特殊鋼―本田技研鈴鹿
		17:40	□日本ビクター―日立栃木
17日(日)	蒲郡市体育館	13:00	湧永薬品―大同特殊鋼
		14:20	□大和銀行―大崎電気
		15:30	□ブラザー工業―東京重機
	石川県体育館	13:50	□立石電機―日本ビクター
		15:10	大阪イーグルス―日新製鋼
	更埴市体育館	12:30	三景―三菱レ大竹
		14:00	大崎電気―本田技研鈴鹿
		15:30	□日立栃木―ジャスコ

□印は女子

―さあ開幕、燃える日本リーグ16チーム―

第2回日本リーグがいよいよ開幕。
各チームとも、学生界、高校界から有力新人を迎えリーグチャンピオンの栄光目指し意欲に満ちた表情でスタートラインに並んでいる。
各地の第一線スポーツライターをわずらわしホームチームの新戦力をリポートしてもらった。

担当記者の新戦力リポート

大同、蒲生(中大)加えパワーアップ

朝日新聞(名古屋)運動部
改田　智洋

東海の男女四チームは前年の男子チャンピオン大同特殊鋼をはじめ、いずれも優勝を狙える強豪揃いだ。

＜大同特殊鋼(愛知)＞ 男子八チームの中で一番豪華な顔ぶれをそろえている。クウェートで開かれた第一回アジア選手権の全日本代表チームに選ばれた選手は、柳川実、藤中、中井、松原、花輪、中本、蒲生(新人、中大出)。なんと十三人中七人をしめている。しかも全員がFP。このほか、GKの柳川清もかつてはナショナルプレーヤー。「これだけの選手を揃えていて優勝出来なければ」といえるほど。

ところが、昨年の全日本総合で湧永薬品(広島)に敗れておかしくなった。4月の4強リーグ(広島)でも湧永に勝てなかった。メンバーが良すぎるため、かえって捨身で当られると攻守に狂いが出るようだ。リーグ二連勝を狙うためには、こういった点を十分注意しなくてはならない。

学生界からただ一人五輪選手に選ばれた新人離れした蒲生がはいったのは大きい。これで中央部は中井、中本、蒲生と並ぶが、平均身長一八四センチと国内では見れなかった大型となる。そしてサイドに花輪が入る。これにトップの藤中、柳川、松原とそろえば、ナショナルチームの布陣だ。中浜監督は「目標は優勝だが、昔にもどって一からやり直す。フォーメーションでないフォーメーションを作るディフェンスは、ゾーン・マン・ツーマン。蒲生がはいってパワーアップしたことだし、大同の第二期黄金時代を築くスタートに日本リーグをしたい」と意気込んでいるのだが。

本田は技巧型に変ぼう

＜本田技研鈴鹿(三重)＞ 昨年は三位、この順位を守ることがまず先決だという。大同、湧永に昨年は敗れているが、「今年はさらに差がついた感じがしないでもない」と弱気だ。元ナショナルプレーヤーの新実と金子が健康上の理由で退部したからだ。なかでも新実を欠いたことはチームにとって技術面だけでなく大きなマイナスとなることは否定出来ない。

このチームの中心選手であるナショナル・プレーヤーの佐藤も新実とのコンビネーションで力を発揮していたからだ。体格の面でも小型化してしまった。

こうしたなかで、即戦力となる西田(京産大出)の加入は明るい話題だ。細野監督は「若手がレギュラーとなり今までと違ったムードになっている。外から打てる選手が少なくなったため、ポストをうまく使い、走るハンドボールを目指す」という。そのためにポストにはいままであまり試合に出ていなかった豊岡が起用されているGKに柴田という全日本のゴールを守る選手がいるため、ある程度の失点は防げる。豊岡が一八二センチの長身をいかし、佐藤―田上の新コンビでどれだけ点を取るかが注目される。

部員が少ないことと試合経験不足を補うため、積極的に対外試合をしている。これで「大同、湧永のどちらかを食い、リーグを面白くする」ことが出来るか。

若手、新人の力がカギ

＜ブラザー工業(愛知)＞ 七人の新人を補強した。そのなかで、即戦力となりそうなのは植田(清水商)と平井(岐阜南高)。昨年の四位よりも上が当面の目標だが白神監督が就任十年目になるため、ここらでひとつ優勝をの意気込みにもえていることもたしかだ。

優勝するためには、いまのままでは、ちょっと力不足という感じがする。それは両サイドにいた佐々木と国府田が退部したためだ。このチームはセット・オフェンスでの得点ケースはあまりない。ロングシュートを打てる選手が少ないため、ディフェンスをかためてから速攻を中心とした速い展開の攻めで得点をとるというパターンを得意としている。そしてここで走るのは両サイドの二人だった。このためチーム力としては落ちたといえる。一応、木下、新人の植田の起用を予定しているものの、木下は経験不足、植田は体力的にやや問題がある。開幕までにどれだけ力をつけるかだ。

長身(172cm)、強打の楠石が故障(右ヒザ)、前期の登録をあきらめなければならないのも誤算になりはしないか。

チームのかなめで、モントリオール代表の小森主将は「楠石はモスクワにぜひ行って欲しい選手。チームにとっては残念だが完全に治し、後期で頑張ってくれれば……。その分新人・植田の意外性のあるプレーに期待している」。白神監督も、楠石抜きでジャスコに連勝(3月、5月)、現布陣に不安はないようで「優勝争いに加わる」と強気だ。

質量ともに充実上昇へ

＜ジャスコ(三重)＞ 昨年の選手が全員健在なうえに、辻本(市邨学園出)宮崎(津女高出)重村(山陽女高出)中原(山口・美祢中央高出)横山(元田村紡、山陽女高出)が補強されて部員十五人になった。いままで田村紡の選手を中心に十人では紅白試合も出来なかったし、「ロンググランの大会には、コンディションの問題で後半

体力負けすることも多かった」というだけに、この補強はあらゆる意味で大きな力となるだろう。
　GK久保、FPの松下、河田をモントリオールに送るなど優秀な選手が多く、田村紡時代の一昨年国体、全日本実業団選手権の二タイトル取るなど実力は十分にあるそれだけにこのレベルまで新人が追いつくのにはまだ時間がかかりそうだ。もともと大きな差はスピードだという。このため、走り込みに重点を置いて練習をしている鈴木監督は「Aクラス進出を狙いたい」。昨年五位という意外な成績に終ったため、まだ上位にという計算のようだが、「リーグ優勝を」という気持はもちろんあるの選手力からみて、今シーズンは優勝してもおかしくない。ただ、上位チームとはいい試合をするが下位チームに取りこぼしをするというムラのあるのがいただけない
　鈴木監督が「若さを期待する」という梶岡俊介氏（二九）＝日体大出・元扇屋（千葉）監督＝をコーチに迎えて精神的にどれだけ成長するか。

埋まるか島田、蔵田の穴

熊本日々新聞運動部
内尾　亨

△立石電機（熊本）▽　昨年暮の全日本総合を最後にチームのけん引車だった島田と蔵田が引退してチームがぐんと若返えったその反面、二人の抜けた穴は非常に大きいと井監督は言う。技術面はもち論のこと、精神面でも大きなマイナスチームワークとムードづくりのために三月には沖縄、台湾に出かけて強化合宿をやった。
　主力はGKの和田、FPの山下、篠田、紀野。和田はカンが良く守備範囲が広い。総合選手権でも再三のピンチを救っている。山下は速攻用員でチャンスメーカー。島田のアナをカバーしようと懸命に努力している。紀野、篠田はロングヒッター。二人で蔵田のアナをうめることができるか。
　この四人を追って着々、力をつけているのが、平下、林、池渕。平下はステップシュートがいい、林はフェイントプレー、ディフェンスもよくなってきた。池渕は力強いシュートが武器。三人とも努力家で、井監督の特訓にもよく耐えている。
　新人では姫野、桑原、羽立が即戦力、姫野は昨年のインターハイ国体で優勝した大分東のエース。チャンスメーカーで足があり、小回りのきく俊敏な選手。桑原は同じく2位の熊本子商のポイントゲッター。ロングヒッターで器用な選手。スカイプレーもうまい。羽立は佐賀の神埼農出身フェイントがシャープだ。
　日本リーグはロングラン。昨年の経験からスタミナの勝負と言うそこで、今年も冬場は熊本県教育研究所の新立氏の協力でポリジンエートなど十二種目のサーキットトレーニングで基礎体力の強化をやってきた。問題は島田、蔵田の穴をどう埋めるか。井監督は「第一回の覇者としてはずかしくない試合を…」と控え目。

意気ごむビクター、苦しい重機

共同通信社（東京）運動部
小山　敏昭

　このところ、立石、田村紡ージャスコらの活躍に押され気味の、関東女子四チームは、独自のカラーを強めて〝優勝〟を目指している。
△日本ビクター（茨城）▽　混戦ムードの女子リーグの中で秘かに優勝をねらっているのがビクターだ昨年のメンバーからGKの渡辺とチャンスメーカーの額賀の二人が抜けたが、GKは渡辺とともにナショナルチームに選ばれた鈴木が健在、足の速い斎藤ら若手が大幅に進歩しており、エースの加藤、穂積らがいっそうプレーに確実さを加えて、うまく他のプレーヤーをリードしている。むしろ戦力的にはアップしたといえる。さらにポストプレーに際立った鋭さを見せた蓮見が、ハードマークに負けないだけのたくましさをつけたことも好材料だ。
　敢て不安な材料をさがせば、チームが時折一本調子になって、乗っているときはいいが、逆に苦境に立つと歯車が狂ったようにチーム全体がバラバラになってしまうことだ。この点さえ直せば、攻撃の幅、展開力とも有数のものを持っているだけにかなりやりそう。
　もっともライバルと見られるジャスコ、立石なども決め手を持っていないだけに、今年はビクターの永年の夢であった〝優勝〟も現実味をおびてきそうだ。池田監督も「ことしはチーム力がアップしたし、念願達成を目指してがんばりたい」と話している。
△東京重機（東京）▽　昨年3位に入る健闘をみせ、本来なら今シーズンは優勝をねらえるはずの重機だが、攻撃の主軸・村上、町田が退部したうえ、大黒柱の古佐原も選手登録はしているものの、実際はコーチ専念。また新人の補強もままなら苦戦は免れそうにない。
　これまでの重機の攻撃パターンといえば、ボールを回して相手をゆさぶって、ディフェンスの穴を古佐原が飛び込んでシュートして得点するというものだ。それだけに多少強引にも切れ込んで強シュートを放つ古佐原の存在は大きかった。今季の浮沈はこの〝穴〟をどこまでカバー出来るかにかかっているといえる。
　そういう意味で折口、横山にかかる責任は重い。二人ともリードオフマンとしての素質は十分で、ボール回しもうまい。また『チームの軸にならねば…』の自覚も出てきた。若手に切り換わったところで今季は思い切ったチームカラーの改造も必要だ。『走る重機』の看板を立てるためにもこの二人をうまく生かしたいところか。一歩間違うと最下位転落—の最悪の事態も考えられるが、とにかく当ってみることが大事なときのようだが…。

積極さ加わり一暴れか

△日立栃木（栃木）▽　今季〝旋風〟を巻き起こす可能性を持つ期待の

チーム。
全日本候補だった桜庭が辞めたが、新人を五人も採るなどチーム強化は意欲的だ。しかも次期全日本のエースとして注目される島田が一層たくましく成長し、韓国遠征で足首を痛めた晴山も「リーグ開幕には十分間に合うし、全く気にしていない」と大張り切り。
ことし名古屋で開かれた第五回NBN杯でもそれまで三年連続して最下位だったのが、今度は一気に2位に進出し、選手たちはすっかり自信をつけた。特に目についたのが、チャンスと見ると積極的にシュートを放つ若手の意欲で、ガンガン、シュートを打っていた
連日四時間近い練習で筋力を徹底的に鍛え、立石やジャスコ、ビクターに負けないだけのスタミナもつけた。強行日程に備えてのコンディショニングも万全。
伊藤監督は「混戦が予想されるリーグだが、その中でも一応ビクターをマークします。もちろんビクター戦も含めて、勝てると見たゲームにはどんどん攻め込んでみたい」と選手以上にファイトを燃やしている。
若さにあふれた日立栃木のプレーはまさに今季、各チームの脅威になることは間違いなさそうだ。

走りこみの成果かける

<大崎電気(埼玉)> 今シーズンからは〝走る大崎〟が見られそうだ。というのはこのところ全く足の動かなかった『大崎』のイメージを変えるため、谷口監督は二月初旬の一次合宿から徹底的に選手を鍛え、一日四時間近くも走る練習ばかりに集中した。その成果が出て練習試合では速攻でチーム得点の大部分をたたき出した。この勢いで乗りこめれば面白い。
戦力的には新人が一人入っただけで、昨年のメンバーに変動はない。だが随所に若さを暴露していた昨シーズンと変わって、今シーズンは猛練習に鍛えたこともあってか選手ひとりひとりが精神的に成長した。
昨年は1点差で敗れた試合が何試合かあったが、谷口監督は「精神面でかなり鍛えたので今季は逆に1点差で勝てるようになったと思う」と抱負をのぞかせる。
またこの経験不足の解消が、うまくチームワークのとれたチームに生まれ変わるきっかけとなり、一人のミスをみんなでカバーし、好プレーはみんなで誉め合うようになった。ここ数シーズン、下位に低迷を続けてきただけに、今シーズンは明かるい話題が多く、リーグの目になりそうな勢いだ。

湧永薬品に欧州遠征の自信

中国新聞運動部　早川　文司

<湧永薬品(大阪)> わが国で初の単独チーム海外遠征（欧州）をして、戦力アップを図ってきた成果を発揮するかどうか、大きな期待がかけられている。新人は迫（広島修道大）一人だけだから、ほぼ現有勢力で戦うことになる。
総合戦力がアップしているのは間違いない。ベテラン木野や緒方高橋が相変わらず健在だし、中堅のGK福井をはじめ全日本プレーヤーの穂積、主将の津川や松本のプレーも安定してきた。そのうえ二年生トリオ、昨年新人王の山本や戸田弟、藤本が急速に成長してきたのは心強い。
その成長は、やはり欧州遠征が裏付けになっている。自信に加えて「やらなければ」という自覚が生まれてきたことである。さらに周囲の大きな期待感も、選手をそうさせずにいられない気持ちにかり立てている。
市原監督は「優勝をねらって最初から飛ばす」ときっぱり言う。そのためには昨年暮れの全日本総合優勝はフロックで、受け身でなくチャレンジする気持ちを植えつけたいとしている。「課題は精神的強さをつけること。まだ〝お人好し〟のプレーが出る。がめつく得点と失点の差を出来るだけつける試合運びをしたい」とも話す。チームカラーである個人の特徴あるプレーをひっさげて、〝打倒大同〟に賭ける意気込みは昨年にも増して強い。

競り勝てる精神力も

<日新製鋼(広島)> 「昨年のリーグでは1点差の負けが2試合、3点差が1試合あった。これを一つでも二つでも勝って6位か5位に」。川岡監督のリーグへ臨む胸の内だ。
そこえの備えも着々と進んでいる。これまで週三回だった練習を五回に増やした。この二回増は、ランニングなど基礎体力づくりのためだ。昨年痛感したリードしていても、終盤逆転されるスタミナ不足解消のためである。
と同時に「勝つことのむずかしさ」をいやというほど味わった。だから練習試合を多く取り入れたりして「競り勝てる精神力の強さ」を養った。
新人は今春の世界学生代表・泉（早大）と森（新居浜工高）。泉は即戦力として期待されているし実業団ジュニアで昨年韓国遠征した関木、徳田、それにGK佐野の三年目トリオが成長してきた。コ

「ハンドボール」52年6月号（第153号）目次

【表紙写真】関東学生春季リーグは早稲田と筑波大（旧・東京教大）が25年秋以来の〝優勝戦〟早稲田（攻）がせり勝った。（5月18日・駒沢体育館）
撮影・山田　真市

2強優勢の男子、女子は大激戦か

◆男子展望　大同特殊鋼と湧永薬品が頭抜けた存在とみられる。

第二グループは、本田技研鈴鹿、三景、大崎電気、紙一重で大阪イーグルス、日新製鋼、三菱レ大竹が追う展開。

日本リーグを盛りあげるためには、この予想されるランキングの下位グループが、上位集団を一つでも、二つでも食えばよいわけだ。

しかし、大同と湧永の安定はかなりのもので、他のチームが食いこむのは容易ではなさそう。第1週の大同×三景、第3週の湧永×大崎あたりで一波乱ないと、前期はもとより、後期（10～11月）までも、まったく味気ないペナントレースになってしまう。

昨年、両者に肉はくした本田は、二強との対戦が終盤に組まれており、それまで無傷で進んでくれば期待がもてよう。

三景、大崎は、どう波にのるかが勝負。大崎は、前年、湧永に土をつけた時のような闘志があれば、新人の力も高く、上位復活が望める。

大阪イーグルスは、今年も一戦々々手固く運ぶ作戦。侮れない。シーズンオフを基礎体力と精神面強化に費したという日新も上位を脅かす力は充分にある。川菱レは、キャリア充分だが、長期戦を乗り切るには手駒が不安。

◆女子展望　去年のビッグスリーのうち、主戦健在は2位の日本ビクターだけ。

1位の立石電機、3位の東京重機は、それぞれ去年の得点源がユニホームをぬぎ、特に重機はAクラス確保にも苦労しそうだ。

それに代ってジャスコ、ブラザー工業、日立栃木が充分に戦力を整備し、前回以上の混戦模様である。

女子は、新人の同化に時間がかかり、シーズン上半期は安定感に欠ける。全勝で折り返すのはどこもムリとみられ、2敗ラインで並ぶという予想さえ立つ。そうなれば面白い。

上位復活を狙う大崎電気は男子同よう久々に活気がのぞく。油断ならぬ存在だ。

新加盟の大和銀行は、9人の新人を迎え大張り切りだが、当たりの強い先輩チームに気おくれしないことが肝心。

波のはげしい女子だけに、2カ月間どうリズムを揃えるか、ベンチワークが一つのカギで、レギュラーにつづく第二線メンバーの力も順位に響いてこよう

ントロールタワーの脇若はいぜん好プレーを見せる。あえていえば大砲不在だが、泥臭いプレーに徹して〝入れ替え戦脱出〟をねらう。

脇若主将は「ミーティングも昨年とはムードが全然違う。みんな燃えている」と大張り切りだ。弱点とされるディフェンスも1：5から0：6に切り替えてガードを固めた。〝温室育ち〟から脱皮を図ろうと懸命である。

不屈の精神で新風

〈三菱レイヨン大竹(広島)〉　三陽商会を破って待望のリーグ入りを果たした喜びは大きい。二十八年に創部という実業団の古豪だが不況の波をまともに受けて昨年、ことしと補強はゼロ、選手も十二人と少ない。しかし「目標としたリーグに入れた」感激をじっくりとかみしめ「昨年、リーグ加盟を断念したくやしさ」（木下監督）をはね返し、闘志満々である。

チーム攻守の要は、ミュンヘン・オリンピック候補だった大江。若手をぐいぐいと引っぱる。そのうえ、善本、岩木、大林、武田ら若手が力をつけ、入れ替え戦でもチーム半分の14得点を挙げて自信をつけている。

「リーグ入りの喜びはあるが、1勝も容易ではない。まず1勝に全力を挙げたい」と木下監督は控え目だが、あわよくば前・後期2勝ずつ挙げて、6位以内1ともくろんでいる。

ただ練習が勤務（三交代制）の関係でそろって出来ない悩みがある。だから休日は出身者の多い岩国工高などで実戦練習に励む。「一人一々の力が他チームに比べて劣るので、コンビネーションプレーで乗り切る」は木下監督だが、きびしい環境を自ら切り開く努力はどこにも劣らない。

用具代なども自己負担しながら続ける情熱は「好きだから」だけではあるまい。不屈の精神でリーグに新風を吹き込む。

異彩放つイーグルス、大和

サンケイ新聞(大阪)運動部
甲田寿彦

大阪が本拠地の大阪イーグルス(男)と大和銀行(女)は異彩を放つ存在。

イーグルスは、ハンドボールはもとより各競技の日本リーグのなかで唯一のクラブチーム。

大和銀行は、本格的にチーム編成して3年目でリーグ入りした新鋭、大阪の女子実業団がトップゾーンで活躍するのは、昭和39年のレナウン大阪以来のこと。

〈大阪イーグルス(大阪)〉　日本リーグのプログラムの欄に最終出身校の項がある。各チームはまさに種々雑多。が〝日体大〟しかないのがこの大阪イーグルス。

「日本リーグができて、各チームは猛烈に戦力強化をはかっている。それなのに、こっちは〝日体大出〟という方針があるもので最近ハンドボール部出身の好選手が大阪で就職するケースが少なくなり、補強が思うようにいかないんです」と井上監督はいう。

そんなわけで新戦力は―ハンドボール出身じゃなく、バスケットボール部のレギュラーだった山口健一君(1メートル75)。「きょ年大学を卒業したんですが、バスケットをやってただけあって、ボールカットがうまい。防御のセンスが抜群」と、守りの救世主として期待をかけている。

〝守り〟といえば、全日本のゴールを守るGK本田を中心に河原崎と早川のベテラントリオがカナメである。

攻めの三本柱は福井稔、高橋、池本。「平均身長1メートル70弱と体は小さいが、うち独得のコンビネーションで守り攻める。教科書のお手本の様うな試合をします目標は3位以内」（井上監督）と体格的に劣る分を頭で補う作戦だ

日体大OBによる「イーグルス友の会」ができ、わずかながらも資金の支えもできた。「OB諸兄の労に報いるためにも頑張る」井上監督は意気に感じている。

＜大和銀行(大阪)＞　昭和四十六年六月に創部。男子の湧永薬品の強力なバックアップを得て五十年頃から急速に台頭した大和銀行。目下、昇竜の勢いとあって全社あげて協力体制。一挙に九選手を大量補強してのけた。

即戦力が三人もいる。エースGK中尾が入れ替え戦で骨折したので丸山（熊本女高）佐藤（新居浜商）の二GKを補強。殿水監督は「中尾が試合に出れるようになるのは七月頃。それまでは丸山でいく積り」とルーキーでアナをうめる策を立てている。

このほかスピードがあってカットインやポストプレーのうまい西田(熊本市立)、上背があってディフェンスのよい東木(国分実業)と好素材がそろっている。

「半数がルーキーなので確かにこわい。でも調子づけば〝若さ〟も武器になるはず」と殿水監督は中出、深江両名コーチの若手育成に全幅の信頼を寄せている。

エースはいうまでもなく全日本実業団選抜の一員になった大型選手・宮本とカンのいいプレーをする富家。二人ともやる気満々だ。

「平均年齢十九歳。こわいもの知らずで生き生きしたフレッシュな試合をお見せします」という殿水監督、まず1勝をめざし、リーグが終っていたら〝6位以内〟にいたというようになりたいと胸をはずませている。

巻き返し狙う大崎、三景

NHK運動部　杉山　茂

昨年の日本リーグ男子は完全に西高東低。大崎電気(埼玉)が4位三景(東京)が5位、8位の三陽商会(東京)は入れ替え戦でも敗れ、姿を消してしまった。

今年は、大崎、三景とも意欲的な補強で、どうにか上位戦線へ顔を出すところまで、力を盛り返せそうである。

＜大崎電気男子＞　「優勝とまではいかなくても、首位争いへ残るようなチームに…」というのが、ここ数年、大崎関係者のいいつづけている言葉。

名門チームにありがちな過去の栄光の重みが、必要以上に選手たちを萎縮させ、スランプ状態におちいっていたのだが、昨年あたりから、それがふっ切れてきた。

家村監督(兼選手)も「久々に好材料が多い」と、斉藤の心技両面における充実、パワーヒッター能波（大阪体大）、GK岡部(明大)の加入をあげ、自信を示す。

特に、斉藤はアジア選手権参加でいっそう空間攻撃に力をつけた彼の技術はリーグの看板になりうる。

ベテラン福本の力を借りていたGK陣も岡部の加入が刺激となって原田の進境という思わぬ成果を生み、チームのムードも盛り上っている。

スピードとスタミナ養成のため週平均3回の練習試合をこなすなど秘かに照準を大同、湧永に当てている、とみていい。

＜三景＞　49年6月、破竹の勢いで進む大同に土をつけたり、その年の全日本総合で準優勝するなど一気に国内最上位へ躍りでたが、そのあとは、仕掛けの速さと得意のパス攻撃を覚えられてしまったせいか、苦しい試合をつづけている。

内藤新監督(兼選手)は、突破口を鈴木(早大)、西窪(中大)、長身・石渡(日大)ら新鋭の突進力にかけ「都会的なプレーに野性味を加えたい」という。

佐々木、山村、川島、村田、中馬ら多彩な技を誇るキャリア豊かな巧者と、新人のパワーがかみあえば、たしかにちがった味の三景が期待できる。

問題は全選手の所属がバラバラで、練習時間が思うにまかせず、仕上りが遅れ気味なこと。

なにしろ、村田(昨年の得点王)などは、主勤務地がホンコンで、リーグ直前に帰国するというのだから大変。

「日本リーグ前の全日本実業団でまとめあげるつもりだったのだが……」と内藤監督は、同大会の3月(来春)移行をうらむが「なんとか、2日目の大同戦で、新しい三景の力が出せるようにもっていきたい」と闘志は充分だ。

日本リーグ繁栄のためには東京のチームが強くならなければ、という関係者の声も大きいだけに三景の巻き返しを見守りたい。

小学生を優待…東京協会

2年目を迎えた日本リーグは、参加各チーム、開催地とも前年の反省から、新しい試みを積極的に採用しているが、チーム側では、ホームゲームで、応援バスを仕立てるプランが多く、また、唯一のクラブチーム・大阪イーグルスに支援グループともいうべき「イーグルス友の会」が生まれたのは注目される。

開催地側の企画は、本誌〆切り(5月20日)までに出揃っていないが、昨年につづいてオープニングゲームをうけもつ東京協会（東京都品川区東五反田二の二の七・大崎電気工業内。03—四四三—七一七一）では、小学生の優待（入場無料）を決め、団体入場を申しこんだグループには、プログラムのサービスなどを行うことにしている。

和田さん(大阪)が入選

公募のシンボルマーク

日本リーグでは、本誌などを通じ、日本リーグの優勝旗記念品などあらゆる公式事業に使用できるシンボルマークを全国から募集していたが21点の応募があり、リーグ運営委員会常任委員会の審査の結果、大阪市の和田松夫さんの作品（1頁掲載）を入選と決め、4月27日発表した。

和田さんは、「日本リーグとハンドボール界の情熱をテーマに制作、中央の円はボールとリーグの和・統一・団結を表現、左右は闘志と意欲を示す炎(ほのお)だ」と説明している。

和田さんには記念トロフィと、副賞3万円などが贈られる。表彰式は6月11日大阪。

また、次の3氏（4点）が佳作として発表された。

堤契至知(大宮市)、宮田信雄(2点、大阪市)、田中康文(大阪市)　＝敬称略

◇第2回日本リーグ前期男子メンバー

大同特殊鋼（愛知・前年1位）

オーナー 金谷正四郎
部長 藤井浩一
監督 中浜大輔
コーチ 野田清
藤中憲二
マネジャー 戸沢恵子

番号	氏名	出身	身長
K 1	柳川 清	熊本市商	175 cm
12	倉谷 栄治	岩国工	174
F 2	★藤中 憲二(57)	日体大	178
③	★中井 武三㉙	同志社大	180
4	松原 光三㉓	日体大	180
5	花輪 博㉛	中大	176
6	柳川 実㉞	熊本一工	176
7	大原 真造⑪	京都産大	175
8	中本 満明⑦	安下庄高	183
9	□蒲生 晴明	中大	194
10	浦田 勝之②	熊本一工	170

湧永薬品（広島・前年2位）

オーナー 湧永儀助
部長 村中明郎
監督 市原則之
コーチ 緒方嗣雄
マネジャー 福井秀人

番号	氏名	出身	身長
K 1	今井 敏之	大阪経大	178
12	福井 秀人	中京大	180
F ②	津川 昭㉙	大阪経大	180
3	木野 実⑭	立大	180
4	★穂積 豊彦㉞	大阪経大	180
5	緒方 嗣雄⑤	日体大	170
6	高橋 益夫⑰	日体大	165
7	戸田 政弘③	中大	173
8	藤本 康生⑧	中大	175
9	松本 義樹㉗	中大	175
10	山本 伸二㉕	名城大	176
11	戸田 栄一⑫	立大	170
14	□迫 茂	広島修道大	177
15	市原 則之	広島修道大	181

本田技研鈴鹿（三重・前年3位）

オーナー 小林隆幸
部長 北村元勝
監督 細野秀男
コーチ 佐藤要二
マネジャー 中田隆一

番号	氏名	出身	身長
K 1	柴田 正章	法大	184
12	細野 秀男	中京大	177
F 2	田上 敬三㉑	法大	177
3	★佐藤 要二㉟	中大	181
4	喜井 美雄⑬	日体大	178
5	豊岡 維佐夫	宇部工	184
6	柳 隆司①	法大	179
7	高木 徹①	岩国工	173
8	川上 雄二	榛原中	169
9	松永 章	熊本市商	168
10	天野 充彦⑯	新居浜工	170
11	嶋林 護	富山北部高	179
13	□西田 民夫	京都産大	176
14	勝田 明	名城大	171
15	中田 隆一	国士館大	166

大崎電気（埼玉・前年4位）

オーナー 渡辺和美
部長 川上馨
監督 家村一敏
マネジャー 小松原保彦

番号	氏名	出身	身長
K 1	福本 弘	芝浦工大	173
12	□岡部 大	明大	183
16	原田 昭昌	聖光学工	180
F ②	佐藤 章治⑫	相模台工	176
3	井手 信一㉗	法大	170
4	橋本 隆三④	法大	172
5	坂口 健二④	水俣工	170
6	斉藤 幸司㉓	日体大	174
7	新田 明	水俣高	175
8	□能波 羊二	大阪体大	182
9	佐伯 安治	熊本市商	182
10	椿原 美春	久留米工	174
11	武藤 保宜	久留米工	170
13	飯田 信行⑧	同志社大	187
14	家村 一敏⑭	立大	180

三景（東京・前年5位）

オーナー 清水正一
部長 永井博
監督 内藤正美
コーチ 喜田建男
マネジャー 竹村久晴

番号	氏名	出身	身長
K 1	佐藤 寿仁	法大	175
12	小林 利男	駒込高	173
F 2	佐々木 健一㉖	中大	172
3	内藤 正美⑨	明星高	170
4	□鈴木 健文	早大	174
⑤	山村 佳生⑧	中大	175
6	川島 一雄⑳	法大	176
7	□中村 吉孝	中大	179
8	飯島 佳治③	日体荏原高	176
9	★村田 幸男㊱	法大	176
10	中馬 成一⑳	九州産大	180
11	□石渡 茂夫	日大	184
13	西窪 勝広	中大	176
14	吉近 正幸	中大	170
15	竹村 久晴	松山商大	172

大阪イーグルス（大阪・前年6位）

オーナー 村田弘
部長 村田弘
監督 井上裕人
コーチ 奥浜清
マネジャー 河原崎勇

番号	氏名	出身	身長
K 1	広川 竜男	日体大	178
12	★木田 洋	日体大	178
F 2	高橋 精一⑰	日体大	167
3	池本 進㉕	日体大	177
4	足羽 博行	日体大	178
5	安達 修三⑥	日体大	173
6	橋本 義人③	日体大	165
7	河原崎 勇⑬	日体大	175
8	早川 清隆⑳	日体大	178
9	福井 稔㊱	日体大	173
10	北居 寿実	日体大	170
11	樫塚 正一	日体大	173
13	奥浜 清	日体大	168
14	北岡 大覚	日体大	168
15	□山口 健一	日体大	175

日新製鋼（広島・前年7位）

オーナー 石田治男
部長 山崎剛
監督 川岡成徳
コーチ 三浦孝
マネジャー 中野誠二

番号	氏名	出身	身長
K 1	三田 祥生	呉工	180
12	佐野 勝典	下関中央工	176
F 2	□泉 喜久男	早大	174
3	松木 達夫	新居浜工	170
4	村川 悟③	新居浜工	179
5	吹上 明⑲	下関工	171
6	下茂 文秋㉕	広高	177
7	脇若 正二⑧	早大	180
8	吉田 義憲②	呉工	177
9	越智 徹雄	呉工	180
10	湯中 勝	境港工	164
11	大庭 泰㉚	同志社大	180
13	関木 吉志⑥	呉工	180
14	□森 信二	新居浜工	176
15	徳田 善雄㉓	浜田水産高	174

三菱レイヨン大竹（広島、新加盟）

オーナー 和田昇
部長 片岡良
監督 木下弘重
コーチ 沖重順陸

番号	氏名	出身	身長
K 1	藤本 茂	尾道高	731
12	中嶋 増男	御船高	173
F ②	善本 敏雄	岩国工	177
3	岩本 広道	岩国工	172
4	岡村 春男	岩国工	167
5	重村 誠	岩国工	183
6	大林 武則	岩国工	172
7	大江 隆夫	芝浦工大	172
8	武田 浩一	岩国工	180
9	末弘 順彦	岩国工	178
10	田中 博	多々良高	175
11	沖重 順陸	岩国工	172

◇第2回日本リーグ前期女子メンバー

立石電機（熊本・前年1位）

オーナー　立石 孝雄
部長　浅野 洸
監督　井 熏

K 1 ★和田 祥子　二俣川高　167cm
12 丸山かよ子　熊本女商　166
F 2 篠田 享子　下関西高　163
3 山下恵美子⑫天草農　160
4 平下 涼子⑤牛深高　162
5 紀野奈々美⑱大分東高　166
6 林 千恵①清友高　163
7 池渕 澄江⑳大谷高　160
8 橋ノ口フサ子　小林商　163
9 □桑原 広子　熊本女商　162
10 □姫野五十鈴　大分東高　153
11 □羽立 節子　神埼農　160
13 □山下るり子　大矢野高　159
11 □江橋 正子　川口北高　165
13 □岩城 由江　清水商　161
14 □寺村かすみ　秋田和洋女　164
15 斉藤ますえ　涌谷高　167

日本ビクター（茨城・前年2位）

オーナー　垣木 邦夫
部長　富田 悟
監督　池田 鉄哉
コーチ　池田二三恵
マネジャー　羽鳥美代子

K 1 鈴木はる子　昭和学院　171
12 塙 てる子　鉾田二高　160
F 2 蓮見 彰子⑦昭和学院　163
3 ★加藤美起子㉑涌谷高　165
4 穂積美保子⑭涌谷高　168
5 小島 和子②水海道二高　164
6 斉藤ゆき子①鉾田二高　156
7 染谷 保子②昭和学院　165
8 池田二三恵⑤昭和学院　167
9 藤原久美子①鉾田二高　165
10 □伊藤 珠美　三宅高　160

東京重機（東京・前年3位）

オーナー　山岡 憲一
部長　山岡 建夫
監督　近藤 金博
コーチ　古佐原ひろ子
マネジャー　寺田美津子

K 1 佐久間 接　三宅高　157
F 2 鈴木久美子⑭秋田和洋女　174
3 折口 律子⑨山陽女商　150
4 古谷 裕子　秋田和洋女　163
5 宮下 直子　三宅高　152
6 寄田美登里　山陽女高　165
7 寺田美津子　秋田和洋女　164
8 横山祐美子⑪秋田和洋女　159
9 細谷ミネ子　須賀川高　158
10 □沖山 元子　三宅高　157
11 ★古佐原ひろ子⑰小高高　153

ブラザー工業（愛知・前年4位）

オーナー
部長　早川 一雄
監督　白神 邦雄
マネジャー　日高さかえ

K 1 山本 福代　佐世保商　164
12 屋比久直子　知念高　160
F 2 岩井 絹子④武庫川女大　163
3 山中さゆり②三本松高　162
4 □則武美智子　富田女高　167
⑤ ★小森久里子⑱佐世保商　166
6 木下 順子　中芸高　160
7 宮平 恵子⑪那覇商　161
8 植田 和子　清水商　155
9 □平井 千春　岐阜南高　158
10 宮本 育代　三本松高　164
11 中川しげみ⑨小松市女高　157
13 □川村 豊子　国分実業　163
14 □小谷五十江　新宮高　161
15 □岡山 清枝　粉河高　155

ジャスコ（三重・前年5位）

オーナー　岡田 卓也
部長　藤井 聖司
監督　鈴木 義男
コーチ　梶岡 俊介
マネジャー　中原 孝子

K ① 久保 徳子　赤羽中　161
12 山本 一枝　大淀中　167
F 2 平田 裕子⑤宇部女高　164
3 松下 仁美⑯三本松高　163
4 林 節子⑭市邨学園　157
5 金田 孝子⑫四日市高　157
6 ★鈴木 洋子⑮津女高　161
7 河田 栄子③山陽女高　167
8 笠 富子②中部中　158
9 若田貴美子③大淀中　161
10 ▽横山 澄江　山陽女高　159
11 □辻村 典子　市邨学園　166
13 □宮崎 充代　津女高　157
14 □重村美智子　山陽女高　156
15 □中原 孝子　美弥中央高　160

日立栃木（栃木・前年6位）

オーナー　権守 博
部長　桑名 照雄
監督　伊藤 宅幸
コーチ　阿部徳之助
マネジャー　藤田 恭子

K 1 粂谷 信子　国学院栃木　162
12 高橋アヤメ　花巻農　164
15 □寺沢 悦美　三宅高　164
F ② 山井マチ子⑥国学院栃木　158
3 晴山 節子②岩手女高　168
4 吉田 良子　古河二高　164
5 小根沢まり子⑥下仁田高　154
6 荒木 利子①結城二高　155
7 田村 京子　平舘高　150
8 大輪 桂子　石岡商　154
9 山戸 妙子　光崋高　166
10 島田さゆり⑱明倫高　172
11 □水上 清美　高岡女高　165
13 □山口 京子　竹田女高　165
14 鈴井あけみ②日体大　160

大崎電気（埼玉・前年7位）

オーナー　渡辺 和美
部長　川上 馨
監督　谷口 俊郎
マネジャー　小松原保彦

K 1 中島 峰子　神埼農高　164
12 藤村美和子　岩手女高　166
F 2 中村三千代②佐世保女高　154
3 席定 洋子⑦夙川学院高　158
4 工藤 淑子　岩手女高　158
5 内野貴代美⑥鹿本商工　151
6 大場 裕子⑫竹田女高　164
7 深堀 安子⑪佐世保商　162
8 佐々木美知子　松江家政　164
9 西 典子⑰佐世保商　167
10 陽田伊都子④夙川学院高　150
11 □小笠原愛子　釜石商　165

大和銀行（大阪・新加盟）

オーナー　永藪 克美
部長　永藪 克美
監督　殿水 幸雄
コーチ　中出 盛雄
深江幸次郎

K 1 中尾 春美　熊本市高　162
12 □丸山あけみ　熊本女商　164
15 □佐藤 直美　新居浜市商　160
F ② 岡村 道子　門真高　162
3 清水 典子　住吉学園　156
4 冨家世都子　鶴見商　169
5 増永 真弓　熊本市高　169
6 義川るり子　国分実業　160
7 内海美智子　新居浜市商　160
8 楊枝三智代　福島女高　158
9 □西田 早苗　熊本市高　158
10 宮本 啓子　新居浜市商　165
11 □東木いづみ　国分実業　169
13 □中武 抄子　西都商　159
14 □片地喜代美　小林商　160

□印は新人、▽印は移籍または復帰、★印は前年のベストセブン、選手名下の○内数字は前年の日本リーグにおける得点数

来春の世界選手権（男子）

上位6ケ国にモスクワ出場権

IHF（国際ハンドボール連盟）は5月5日、一九八〇年（昭55）のモスクワ・オリンピック男子12カ国を次のように内定した。

一、来年二月デンマークで開く第9回世界選手権Aグループの上位6カ国
一、一九七九年（昭54）二月に開かれる第10回世界選手権Bグループの上位2カ国
一、アジア大陸代表1カ国。アフリカ大陸代表1カ国。
一、開催国（ソ連=決定）

□……〝モスクワ〟が早々と始動した。配分は極めて常識的な線に落ちつき、日本は（来春の世界選手権に出場できるものとして―）ベストシックスにもれても、アジア予選で浮上するチャンスが残される。

しかし、モスクワオリンピックは、日本体協やJOC（日本オリンピック委）の査定が、いちだんと厳しくなるものと予想され、世界選手権でベストシックスまたはそれに準ずるランクは確保しておく必要があろう。

世界選手権6位までにソ連（開催国）が入った場合は、世界選手権Aグループ7位国またはBグループ3位国のいずれかが繰りあげられる。

第10回世界選手権Cグループは来年11月行われ、上位2カ国がBグループに進むことも同時に発表されている。

□……今回の決定で、第10回世界選手権のB、Cグループがオリンピックに結びつくことが明きらかとなり、モスクワオリンピックは「第10回世界選手権Aグループ」を兼ねる形になる。併称されるかどうかはともかく、実質的にはモントリオール以降、2年おきに世界選手権が開かれる勘定だ。

なお、男子が12カ国に確定したため、モスクワ・オリンピックの女子は自動的に6カ国で行われることが決まった。参加国の決めかたは、まだ発表されていない。

日本、クウェートなど4ケ国で

世界選手権アジア予選

第9回世界選手権Aグループのアジア、アフリカ、アメリカ各地域予選エントリーは4月30日締切られ、注目のアジア地域は日本、クウェート、サウジアラビア、台湾の4カ国が届け出たにとどまった渡辺和美IHF理事（アジア選出）から、日本協会・荒川清美理事長へ5月9日連絡があったもので、予想された韓国、インド、シリアなどは申しこまなかった。

予選期日は今秋10月末までと決められており、渡辺IHF理事によって、近く競技法式（組み合わせ）や会場などが発表される予定だが、同理事は非公式ながら「日本対台湾、クウェート対サウジアラビアをまず行ない、その勝者で決勝（いずれも2回戦制）」を日本協会へ示した模様だ。

日本開催の公算も

□……僅か4カ国の参加を意外とされるムキもあろうが、日本協会周辺は予想どおりとする見方が強い。

これは、4月にアジア選手権が開かれたばかりで、当分アジア諸国は、アジアにおける大会を第一とする傾向が強まったこと、しかも、日本が圧倒的な強さをみせ、〝世界〟への望みがうすいことが手伝っている。

また、オリンピック定着も微妙に影響しているようで、2年後のオリンピック予選は、かなりの国が集まるものとみられる。

ただ、韓国の不参加だけは、日本協会関係者も首をひねっており改めてアジア選手権にかけていた同国の姿勢がふり返られている。

□……さて、予選運営だが、渡辺IHF理事が内示したとも伝えられる極東サイドとアラブサイドの取り組みが、現状では最善であろう。

問題は開催地。日本×台湾は台湾で行ない、日本が勝った場合の決勝は、日本またはクウェートあるいはリヤドで行うことになるのではなかろうか。

日本と台湾の過去の対戦成績は昨年3月のモントリオールオリンピック予選における40―13、42―16。クウェートとはアジア選手権の30―17、サウジアラビアとは同27―13である。

今秋女子のBグループ

第7回世界女子選手権Bグループは、今冬2月3日から10日まで西ドイツで開かれるが、IHFはこのほど予選リーグの組み分けを発表した。イスラエル、イギリスの出場が注目される。

なお、来年12月チェコで開かれるAグループの参加国はモントリオール・オリンピックの上位3カ国（ソ連、東ドイツ、ハンガリー）、開催国（チェコ）のほかBグループ上位5カ国、アジア、アフリカ、アメリカ地域から各1カ国、計12カ国の予定。

アジア地域予選の詳細は発表されていないが、来春1〜4月になるものとみられている。

（Bグループ予選リーグ組み分け）

▽A組　ノルウェー、スペイン、オランダ、西ドイツ
▽B組　ユーゴ、ブルガリア、フランス
▽C組　ルーマニア、スウェーデン、スイス
▽D組　ポーランド、デンマーク、イスラエル、イギリス。

第9回世界男子選手権Aグループ予選リーグ組み分け

▽A組　西ドイツ、ユーゴスラビア、チェコ、アメリカ地域代表
▽B組　ソ連、デンマーク、スペイン、アイスランド
▽C組　ルーマニア、ハンガリー、東ドイツ、アフリカ地域代表
▽D組　ポーランド、スウェーデン、ブルガリア、アジア地域代表

世界ジュニア（男子）でソ連優勝

第1回世界ジュニア男子選手権は、4月11日から19日までスウェーデンのヨテボリに、次代をになう21才以下（一九五六年以降生まれ）の若いナショナルチーム・21カ国が参加して開かれた。

できるだけ実戦の場を、という配りょから、2〜3カ国による8組の予選ラウンドのあと、ベストエイトを2組に分けて準決勝リーグを行ったほか、下位リーグも組まれ、最後に1位から22位までを決定する順位戦11試合が争われた。

有力とみられたソ連と東ドイツが、いきなり予選リーグで同組となってしまい、ソ連が1勝1敗ながら合計点でわずかに上廻り、余勢をかって準決勝リーグを勝ち抜き、決勝戦もハンガリーを寄せつけず、初のチャンピオンとなった。

上位ではスペインが4位に食いこみ注目された。東ドイツは結局8位、優勝候補の一角にあげられていた西ドイツは5位、ルーマニアは11位に終った。

アジア地域から唯一の参加国となったクウェートは16位。

なお、3月ルーマニアで行われる予定の女子（19才以下）は、同国が大地震に見舞われたため9月に延期されている。

▽予選リーグ主な記録

ソ連 21─15 東ドイツ
東ドイツ 23─19 ソ連
スウェーデン 22─21 スイス
デンマーク 16─15 ルーマニア
スペイン 17─11 フランス
ハンガリー 21─16 イスラエル
ハンガリー 17─14 チェコ
西ドイツ 14─13 オーストリア

▽準決勝リーグA組

ソ連 34─13 デンマーク
ユーゴ 23─20 スウェーデン
ソ連 16─12 ユーゴ
スウェーデン 25─19 デンマーク
ユーゴ 26─19 デンマーク
ソ連 31─19 スウェーデン

▽同B組

ハンガリー 14（分）14 スペイン
西ドイツ 16（分）16 ポーランド
ポーランド 24─23 スペイン
西ドイツ 16─12 ハンガリー
ハンガリー 26─19 ポーランド
スペイン 21─18 西ドイツ

（注）4カ国とも1勝1分1敗の同率となり、得失点差で①ハンガリー②スペイン③西ドイツ④ポーランドの順

▽9〜16位決定戦予備リーグA組順位①チェコ②フランス③オーストリア④オランダ

▽同B組順位①東ドイツ②ルーマニア③スイス④クウェート（東ドイツ×ルーマニアは21─21）

▽17〜21位決定戦予備リーグA組順位①ノルウェー②モロッコ

▽同B組順位①イスラエル②マダガスカル③チュニジア（棄権扱い＝別項参照）

4位にスペイン　クウェートは16位

▽19・20位決定戦
モロッコ 38─23 マダガスカル

▽17・18位決定戦
イスラエル 20─18 ノルウェー

▽15・16位決定戦
オランダ 23─17 クウェート

▽13・14位決定戦
スイス 23─15 オーストリア

▽11・12位決定戦
ルーマニア 28─20 フランス

▽9・10位決定戦
東ドイツ 23─21 チェコ

▽7・8位決定戦
ポーランド 18（1─0、1─1…8─8、8─8）17 デンマーク

▽5・6位決定戦
西ドイツ 21（14─9、7─10）19 スウェーデン

▽3・4位決定戦
ユーゴ 24（12─13、12─8）21 スペイン

▽1・2位決定戦
ソ連 24（11─5、13─5）10 ハンガリー

チュニジアにペナルティか

イスラエル戦拒む

4月11日からスウェーデンで開かれていた第1回世界ジュニア男子選手権の第6日（4月18日）、17〜21位決定戦予備リーグB組に組まれていたチュニジア×イスラエル戦で、チュニジアが対戦拒否するという事件がおきた。

IHF（国際ハンドボール連盟）の主催する国際大会で、このようなトラブルは初めてといえ、IHFは事態を重視、チュニジアになんらかのペナルティが課せられる模様だ。

日本協会消息筋では、戒告などではすまず、期限つき出場停止も考えられるとしているが、その場合アフリカ諸国がどう反応するか大きな問題に発展することもあり得るだけに、なりゆきを見守っている。

ブカレストが久々に優勝

〜男子ヨーロッパ杯〜

第17回男子ヨーロッパカップの決勝戦ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）×チェスカ・モスクワ（ソ連）の試合は、4月24日西ドイツ・ドルトムントのウエストファーレンホールに三千のファンを集めて行われ、21─20（前半14─9）というきわどい勝負でステアウア・ブカレストが勝ち、第9回（一九六七）以来、9年ぶり2度目の優勝を飾った。

試合は期待どおりの大接戦で、ステアウアは前半5点差をつけたが、チェスカの猛反撃にあって後半14分同点とされ、そのあとは一進一退、残り5分すぎステアウアはビルトランのこの日、8、9点目のゴールでチェスカを突きはなした。

MAI・モスクワ勝つ

〜男子カップス〜

第2回男子ヨーロッパ・カップ・オブ・カップス（ウインナーズ・カップ）の決勝戦MAI・モスクワ（ソ連）×SC・マグデブルグ（東ドイツ）の試合は、4月28日西ドイツ・ドルトムントのウエストファーレンホールに五千をこす観衆を集めて行われ、イリン、マキシモフらのモスクワが、ドライボール、ゲルラッチらのマグデブルグを18─17（前半9─7）で退け初優勝した。

（今月は「海外トピックス」休載）

来春、西独クラブ来日か

日本協会は西ドイツの男子クラブ「リーベス・アーバンゲン」と女子クラブ「VRF・マンハイム」が、来春4月来日を希望していることを明きらかにし、各地へ照会中である。

男子は州リーグ所属だが、女子は全国リーグ南地区で今季4位の強豪。

全国からの推せんで「ヤング(男)」

幸田(男子)、横地(女子)両強化部長も決定

強化委員会

注目の強化委員会は、4月17日5月15日と2回の委員会（強化部門のみ）を開き、幸田理事の男子強化部長、横地理事の女子強化部長正式就任をふくむ委員会内人事「ヤング全日本（男）」復活など活動方針を決定。6月19日の全国理事会に提出する注目の男女強化コーチと新ナショナルチームのリストアップまでを完了した。（＝次号発表）

強化委員会のスタッフは、本誌既報のとおり、強化部門と総務部門に分かれ、このうち強化部門は渡辺委員長（常務理事）と、幸田横地両部長（理事）さらに五加盟団体の代表と日本リーグから二名の委員が送りこまれて構成されている。

一方、総務部門（事務組織）はこれまでの技術現場一本やりの頂点強化対策を、能率的、多角的に運行する目的で設けられ、渡辺委員長が、4月以来、候補者を説得別掲のようにまとめあがった。

男子チーム担当（マネジャー）と、メディカルコミティ（トレーニング・ドクター）は、6月15日までに決定される。

発表されたスタッフのうち、企画担当の井薫氏（中大出）はモントリオール・オリンピックまで女子ナショナルチーム監督をつとめた人。

今後は、これまでのキャリアを活かし、総務サイドで活躍することになる。

活動方針は、日本体協への提出が5月末までとあって、全国理事会では事後報告の形を採るが、このあたり、独立色を打ち出した新体制ならではの動きだ。

5月の委員会では、幸田男子、横地女子両部長から、長期的な強化体制と、一貫した指導路線の確立が強調され、男子は、49年度で途絶えている「ヤング全日本」の復活を正式に決定した。

そして、「ヤング全日本」のコーチは、これまでのように〝独立〟した人選ではなく、男子ナショナルチーム・コーチングスタッフの一人をヤング専従とすることになり、新鮮な人材の登用を申し合わせた。

また、選手については、従来どおり、満23才以下（原則として16才以上）とするが、各都道府県の高体連委員長と全国八学連から、7月15日までに候補選手の推せんをうけ、そのあとでコーチングスタッフが選考、編成することとした。

推せんにあたっては「身長183cm以上」を条件とし、これ以下の選手は、高校低学年で今後183cm以上になる可能性の者あるいは特異な技能をもつ者に限ることとした。

独立色が強まった強化委だが、施策の上で各組織とラインを結びあえば、浮き上がりがさけられる。その意味からもこの方針は評価されていい。

実業団、自衛隊の若手については、それぞれの全国連盟から推せんを受け、高専界については改めて検討することになろう。

女子のヤング編成についても一部の委員から提唱があったが、相変らずトップクラスの年令層が若く、高校の優秀選手だけをリストアップして活動するのも課題が多いため、当分見送りとされた。

第3回強化委員会の日程は未定

強化委員会スタッフ

▽委員長　渡辺　慶寿（常務理事）
▽男子強化部長　幸田　末之（理事）
▽女子強化部長　横地　宇吉（理事）
▽委員　藤原　侑（全日本学連）
井上　裕人（全国高体連）
～ヤング担当～
山田　稔（全日本実連）
柳井　文治（全日本教職員連）
富永　劭（全日本自衛隊連）
村田　弘（日本リーグ男子）
桑名　照雄（日本リーグ女子）
▽事務組織
・総務担当　渡辺委員長兼任
・国際担当　清水　克真（本部推せん委員）
北川　勇喜（本部推せん委員）
・企画担当　杉山　茂（本部推せん委員）
井　薫（本部推せん委員）
・チーム担当(女)　坂理泰幸(本部推せん委員)
・チーム担当(男)　人選中
▽メデイカルコミティ（トレーニングドクター）
・人選中

強化委員会首悩の話

渡辺慶寿委員長　〝完全独立〟といわれても、まだまだ初歩的な理解を得ることに時間がかかるあせらず、じっくりと活動を進めたい。

強化路線は現在の力をどう今後に結びつけるかが主体になる来年の世界選手権(男女)―モスクワオリンピックまでで区切らず、とりあえずのゴールを一九八四年のオリンピック（開催地未定）に置きたい。

私はもっぱら、強化体制の組織づくりにあたり、ナショナルチームは男女両部長とコーチングスタッフにまかせるつもりだ。

独立を果たすには、資金の裏付けも必要で、強化委員会内に〝資金担当〟も置きたい。

幸田末之男子部長　理事に加った初年度に重要なポストを委せられ責任を感じている。ナショナルチームの活動が存分にできるよう精いっぱい努力する。

ナショナル、ヤングとも現在は全国連盟の力を借りているが将来は、ブロック別に種別の枠をとり払った〝地域ナショナル〟を造り、〝全日本〟に結びつけるようなシステムにしたい。

有望選手の発掘については、コーチ陣だけにまかせず私自身もできる限り見て歩きたい。

横地宇吉女子部長　女子の強化責任者が組織内に置かれるのは初めてだそうで、責任が重い。

当面の目標は、来年12月の世界選手権だが、各チームとも若返ったようだし、全日本も一から出直さなければなるまい。

できれば、来年3月頃、ヨーロッパ遠征を行なって、経験を積ませたい。

この遠征には、国内各チームのコーチから希望者を募って同行させてみたい。

専門委員会の人選進む

日本協会活動の中心を、これまでの常務理事会―理事会から、各専門委員会に置きかえるという新体制は、多くの注目と期待を集めながら、スタート後2カ月を経過したが、その成否を握る各委員会人事は、急ピッチで進み、本誌〆切り（5月20日）までに、次のような決定（一部は内定）をみた。

各委員会は、6月からいよいよ本格的な活動に入るが、内外に多くの課題をかかえているだけに、どのような新しい施策、方向が打ち出されるか、興味深い。

なお重復している委員の調整や追加リストアップなどがこのあと行われることになっている。

編集委員会スタッフは6月10日に発表される予定。

昭和52・53年度日本協会専門委員会名簿

技術委員会　▽委員長　大西武三（理事）、▽委員　森恭一（理事）、富永劭（理事）、安達精太（北海道）、北村尚英（東北）、山口吉弘（北信越）、家村一敏（関東）、浅野克彦（東海）、久保田広次（近畿）、松原紀機（中国）、石原達夫（四国）、今村孝一（九州）、藤原侑（全日本学連）、大野文雄（全国高体連）、池田鉄哉（全日本実連）、北川勇喜（全日本教職員連）、瀬田哲彦（全日本自衛隊連）一宮昌平、北井晴次、川上整司、浅野鉦也、土井秀和、稲垣雅彦（以上本部推せん）

普及指導委員会　▽委員長　勝繁夫（理事）▽委員　遠藤健次（理事）、伊藤和夫（理事）、八重樫英治（北海道）、碇谷寿明（東北）、大谷文雄（北信越）、高橋隆夫（関東）、岡田重博（東海）、山中善之輔（近畿）、船江昭光（中国）、酒井満（四国）、宍戸幸一（九州）、田中秀夫（全日本学連・理事）、永井勝雄（全国高体連）、福本弘（全日本実連）、島田房二（全日本教職員連）、室川正治（全日本自衛隊連）、平岡秀雄、水上一、浅野鉦也（以上本部推せん）

審判委員会　▽委員長　安藤純光（理事、競技委員会担当常務理事）▽委員　藤田八郎（理事）、清水正（理事）、岡田豊夫（北海道）、由利弘（東北）、加藤雅之（北信越）、清水正（関東・理事）、鈴木城（東海）、岡本克彰（近畿）、楠戸椿也（中国）、河本武夫（四国）、日野博（九州）、藤田信義（全日本学連）、中西敬一（全国高体連）、近藤金博（全日本実連）、福井正躬（全日本自衛隊連）

▼ルール研究委員会　岡前義春、大塚文雄、佐野和夫、上久保重次、迫利通、原信雄、田中隆一、島田房二。

渉外委員会　▽委員長　境井秀三（常務理事）、▽委員　横地宇吉（理事）、高田日呂美（理事、国内事務担当）、田中秀夫（理事）、青木規子（本部推せん）

企画委員会　▽委員長　山田哲雄（理事）▽委員　石切山稔治（理事）、入江暢一（理事）、越智武（理事）、高橋健夫（理事）、栗岩淳一、鈴木亮一、手島光山口毅、福田誠（以上本部推せん）

財務委員会　▽委員長　島田清史（常務理事）▽委員　柳沢民弥（理事）、中沢重夫（理事）、光島浩（理事・兼会計担当理事）

審判審査委も決まる

日本協会は、昭和52、53年度の日本協会審判審査委員会のメンバーを次のように決め、発表した。

入江暢一、佐藤敦、藤田八郎、嶋田新太郎

記念行事は12月か

日本協会は、来年2月2日に創立40周年を迎えるが、嶋田新太郎理事を委員長とする記念行事委員会は、同時期が、男子の世界選手権（デンマーク）と重なることなどもあって、記念行事を今冬12月の第29回全日本総合選手権（東京）時に開くことを検討している。

荒川理事長、要職重なる

さきに日本体協理事、JOC（日本オリンピック委）常任委員に選出された日本協会・荒川清美理事長は、その後さらに日本体協の競技力向上委員、国体委員、国民スポーツ委員に選任された。

いずれも、国内アマチュアスポーツ界の最先端にある要職。

高体連、条件つきで「共催」

高校選抜ハンドボール

全国高体連は、5月24日東京で理事会を開き、さきに青少年運動競技中央連絡協議会で承認された高校生対象行事のうち、日本ハンドボール協会企画による「第1回高校選抜ハンドボール大会」（53年3月26～28日・名古屋）の名儀共催について審議、「この大会のための予選をブロック、県とも開かない」「参加者に経費の負担をかけない」などを条件として承認した。

〔注〕いわゆる高校選抜大会は、現在バレーボール、バスケットボールなど13競技が行われているがこのうち、全国高体連が名儀共催しているのは8競技。ハンドボールは9番目の申請だった。

最近の理事会では、選抜大会の乱立にブレーキをかける発言が目立ち、ハンドボールは、その渦中にとびこんだ感じで、付帯条件を守ることがこれまでになく、強く念押しされた。

予選会については、新人戦などを代行すれば解決できるが、経費については、6月19日の全国理事会で〃対策〃がこうじられよう。いまのところ、旅費負担が限度とみられ日本協会財政とのからみで問題は多い。

海上下総が3連勝

全日本自衛隊選手権

第9回全日本自衛隊選手権は5月19日から22日までの4日間、東京・駒沢体育館に全国から25チームが参加して開かれた。

前年の成績によるシードにチーム以外の13チームによってまず予選トーナメント、そのあと16チームの決勝トーナメントが争われたが、決勝は3年つづけて海上下総（千葉）×勝田（茨城）の顔合せ、下総がエース平野（全日本）の活躍で18―10と快勝、3年連続4度目の優勝を飾った。

3回目を迎えた少年の部は武山少年工科学校（神奈川）が江田島少年術科学校（広島）を16―6で破り2年ぶり2度目。

女子エキシビジョンは、3チームのリーグ戦で、三宿高等看護学院（東京）が勝った。（詳報次号）

新しいスタートを前に③
国際事業の活発化と新企画を

日本協会のウイークポイントは企画力、事業力の乏しさである。
　審判委が比較的ヒットをとばしているのが目立つ程度で、あとは卒直にいって、旧来事業の色を時おり塗りかえるぐらいのものだ。
　もっとも、この数年はオリンピック採用で追いまくられ、世界でもまれな密室試合まで行わされるハメになったが、そう何時までもオリンピックだけで回転させているわけにはいくまい。
　日本リーグにしても、全国中学生大会にしても、春の高校選抜大会にしても、他競技界のあと、あとを追ったもので、新鮮さにかける。
　我が身を知った慎重さ、と一歩ゆずっても、今後は、アッと驚くような企画を考え、実行に移してもらいたいと思う。
　継続している事業の総点検ももちろん必要だが、なかでも、積極的な姿勢が待望されているのは、国際事業の活発化である。
　ミュンヘン・オリンピックの翌年、金メダルチームのユーゴを招いて、それこそアッといわせ、つづく49年の東ドイツ招待では、全日本戦4試合がテレビ電波にのるなど、いいムードだったのだが、後続が途切れた。
　ヨーロッパのトップクラブによる新シーズン開幕国際試合も、春闘による交通事情の不安で、今年から姿を消してしまい、期待された今秋のソ連戦もお流れのようだ（ついでながらいえば、ソ連戦の深追いは、もうそろそろよしたほうがいい。
　たしかに、男女オリンピック優勝という看板の魅力は捨てがたいが、39年ごろから毎年交渉をつづけ、ハネられているのは、相手側に、あまり意志がないからではないのか。
　特に、今年など、印象では、どたん場でキャンセルとなり、こうなると代替国を探すことさえ難しく各地で、せっかく確保した会場が遊んでしまうことになる。）
　これまでの日本協会の国際事業は、すべて受け身であった点に問題がある。
　日本が来て欲しいという働きかけを示した例はまれで、たいていは、相手側の来たい、という意志に合わせた事業が多い。
　強化サイドなどでは、呼びたい国、行きたい国のリストさえあるそうだが、とても実現はムリでしようとあきらめている。
　ファンにとっても、見たい国、見たいクラブはあるわけで、湧永薬品(広島)が、ヨーロッパで活躍したなどと聞くと、いっそうヨーロッパのトップクラスを招いて欲しくなる。
　こちらからの呼びかけとなると約八百万円といわれる日本までの航空費も負担しなければならず、各地の分担金などが増えるという問題が生じるが、だからといってキャッチフレーズに乏しいチームとの交流で、お茶をにごしていては、新しいファンの開拓など、とてもできない。
　日本のハンドボールは、たしかに、ひところに比べれば、知名度もあがったし、理解もされてきた。
　しかし、それは、球界内でこそ〝大飛躍〟であっても、外部からすれば、単なるワンステップにすぎず、場合によっては、ごく常識的なことにしかすぎない。
　ここらあたりのギャップを、日本協会全体が、気づいていないと日本のハンドボールは、ハンドボール界だけのものにおちこんだまま終ってしまうだろう。
　今後は、いっそうハンドボールを一般市民の中へ溶けこませていくことに、全力をあげるべきだ。
　それには、国際試合をふやして新しい愛好者の目を向けさせるのが近道だし、トップ層の強化にもつながる。
　やりようによっては、財源確保にもなろう。
　荒川理事長のいうように、最近10年間は〝近代第1発展期〟であった。
　だが、これからの、いわゆる第2発展期の展望は、必ずしも開けてはいない。
　むしろ、手詰りな印象さえありよほど、企画、事業面で新しい構想を打ち出さないと、一転、日本協会はピンチに立たされる危惧さえあると思う。
　荒川理事長は、この危機感を感じとっているのである。
　それだからこそ、委員会制度という思い切った機構改正を行ない各委員会の行動を、これまでとは比べものにならぬほど「自由にした」のだし、あえて〝第2発展期〟という期待をこめた表現を用いたのだろう。
　ここにあげた国際事業の活発化はほんの一例だが、新しいファン新しい愛好者をどう増していくかそれには何をしたらよいのか――
　新しいスタートを前に、日本ハンドボール界が総討議してよいテーマである。今期役員の責任は重い。

新しいスタートを前に ④

各委員長に抱負を聞く

安藤純光競技委員長兼審判委員長

審判界の事業としては、若手養成、人材発掘を目的にした「JHAレフェリーコース」の開設で、一通りのものが出揃った。

今後は、各事業の内容充実を心がけたい。

組織的にも形は整ったが、内容面ではチェックしなければならぬ課題もあり、今期は、基礎期から発展期への境になろう。

また、アジア球界の確立によって、〝アジアのレフェリー〟のレベルアップにも、日本が中心となりつくしたい。

それが、日本人審判員を世界の舞台へ、という宿願達成につながると思う。

私個人は、競技委員長との兼任になったが、新機構への切り替えが急だったため、審判委のバトンタッチができなかった。

競技委員会は、各委員長だけではなく、競技系3部の全理事（9名）で構成するつもりである。

兼務は、矛盾する点もあるので任期中に審判委員長のポストを引き継ぐようになるかもしれない。

大野金一総務委員長・今年度の日本協会の機構改革は執行体制の強化にありました。強化、競技、総務等の委員会に従来の常務理事会の権限を大幅に委譲するとともに各委員会所属の担当理事にその職務を分掌させる。そのメンバーは従来の全国理事会と同じであっても、各理事の議論は、責任に裏打ちされた活き活きとしたものとなり、若い専門委員の参加で後継者を養成することもできます。

総務委員会は、事業部門に対しサービスを提供する一方、ハンドボール界内外の意見を吸収しこれを企画調整し、実行に移すために少々ラインオーバーすることがあるかも知れませんが、これもハンドボールを思うが故ですから、その点は大目に見ていただきたい。

大西武三技術委員長・ハンドボールを社会的に認められるスポーツにしたい。

今の日本のハンドボールは、関係者だけのスポーツだ。

動きのある意外性に富んだスポーツとして、感動を覚えるようなスポーツにしなければ、ハンドボールは、いつまでも、このままだろう。

ハンドボールとはなんだ、ということを機関誌などで積極的に解明したいし、プレイヤーのモラル向上にもつとめる。

オリンピック定着がそのまま、日本のハンドボール界の発展にもなっている、という錯覚が国内にありはしないか。

真の国内的な発展を新しい技術委の使命として努力したい。

勝繁夫普及指導委員長・懸案の「全国クラブ大会」の実現が遅れ、その間に岐阜協会や静岡協会の企画するクラブ大会が行われるようになった。むしろこの傾向を伸ばしよい意味で各地にクラブ大会を〝乱立〟できたらと考えている。

各大会が、それぞれ特色を打ち出すようになれば、クラブ側も出場大会を選択し、やがて「全国クラブ大会」をなんの懸念もなく開けるだろう。

東京で試みた〝土曜の集い〟は参加者も定着したが、反面それは頭打ち現象ともいえる。2年目の企画が課題となろう。

第3土曜の夜は、全国一斉にこのような催しを、という理想の実現にも、是非立ち向かいたいと思うのだが――。

島田清史財務委員長・予算編成なくして事業計画成り立たず。豊かな予算なくしては活き活きとした事業活動は成し得ない。豊かな予算を得るには―。幸い先任者の努力により基盤は確保されているのだから、それにフレッシュでアトラクティヴな企画、宣伝を持ってすれば必ず達成出来る。具体的には華麗なる日本リーグの開催もその一つであるが、国外より強豪チームを招き激突熱戦を展開し、確固たるハンドボールファンを獲得するのも一つの方法。また人気ある大学リーグの強化。何れにしても良識者、ジャーナリストの絶大な協力と援助なくしては出来得ぬ事。幸い実力者会長を頭に得た今日、協会役員始めハンドボールマンの勇気ある前進を期待する。

フレッシュアンドアトラクティヴそして善を行うに勇なれ!!

境井秀三国際渉外委員長・私はヨーロッパ諸国の実情を見るにつけ感ずることは、トップの強化はただナショナルチームの強化だけで単独で達成できるのではなく、その国の長いハンドボールの歴史と厚くてレベルの高い競技人口に支えられた結果として、強力なナショナルチームが生れてきているということを実感として感じている。

今年はハンドボール協会創立40周年になるが、こうした意味に於ても40周年を一つの転機として、新しい時代へ日本のハンドボールが成長して行くよう努力して行きたいと念じている。

山田哲雄企画委員長・全協会事業に関する調査・企画・立案・調整および実施という分野を担当することになるが、地方協会、各加盟団体等との連絡を密にし、又協力を仰ぎ各事業運営の円滑化と発展を計る。また40周年協会創立記念行事委員会と協力し同行事の企画運営に当る。新しい事業の開発についても財源的な開発も含め、ハンドボール界の発展に向けて新しいアイデアを広く募り充分な検討をし最大の努力をしてゆきたい。

高田日呂美国内事務委員長・いろいろな状況に応じた適切な判断と正確な実行力を必要とする部門なので、はたして十分に行うことが出来るのか心配しております。各委員会との連絡をよくとり、事務局の堤氏と一体となって、協会の事務が円滑に進むように心がけて行きたいと思います。さし当り、外国チームの来日に際しての日本協会のマニュアルづくりを手がけて行きたいと思っております。

光嶋浩会計担当委員長・51年度は一般会計に若干の黒字を上げることができ、感謝しております。しかしオリンピック種目の定着により内外の情勢は大いに変貌し、本年度は国際間の接触は増加し、国内の普及発展に伴い各方面よりの要望は日増しに高まって、その対策費の増加は必至であります。この為会計部門においても、長期的科学的に計画を樹て、各種事業の遂行を円滑にすべく努力します。

全国教員養成大学研修会

「技術研修」と「指導法」に分ける

日本協会は、このほど今夏8月23日から26日まで東京で開く「第4回全国教員養成大学ハンドボール研修会」の要項を発表した。

今年度から研修コースを「技術」と「指導法」の二つに分けて参加者を募るのが大きな特色。

「技術研修コース」への参加は原則として7～10名のチーム単位「指導法研修コース」への参加は個人でもよい。

参加資格は例年どおり、全国の国公私立の教員養成大学（学部も含む）の男女学生となっている。

○……全国教員養成大学研修会要項……○

▽主催、日本ハンドボール協会▽後援　文部省▽会場　東京「オリンピック記念青少年総合センター」▽期日　8月23～26日（3泊4日）▽参加人員　「技術研修コース」「指導法研修コース」合わせて約百名。申しこみが定員になりしだい〆切られるが、地方大学及び新しく結成されたチームが優先される▽参加申しこみ、7月10日までに所定の用紙（申しこみ書）で日本ハンドボール協会あて。＝東京都渋谷区1の1▽経費　参加料として一人四千円。申しこみ時に日本協会へ現金書留で納入すること。（8月23日昼食～26日朝食及び宿泊費は日本協会が全額負担。また、旅費の一部も日本協会が補助）▽指導者　日本協会競技委員会及び強化委員会。

○……研修予定課目……○

◇技術研修コース・基本技術、応用技術、体力トレーニング、総合技術、審判技術、ゲーム。

◇指導法研修コース・基本技術、指導第一～第五段階、審判技術。

このほか両コースとも講演、講議など。

静岡で全国クラブ大会（7月16・17日）
あなたのチームもぜひ……

静岡協会は日本協会普及指導委員会のクラブ対策とタイアップして第1回全国クラブ大会（男女）を開催することになり、このほどその要項を発表した。

地方協会による全国規模のクラブ大会は、昨年12月岐阜協会が女子のトーナメントを主催したのにつづき2度目。

静岡大会は、初めて男子の部が設けられ、クラブの実情を考えたスケジュールなど苦心を払っている。また、参加チームは審判有資格者1名を同行させるという新しい試みが採られるのは注目してよい。

なお、静岡協会は、大会要項の発表を、本誌のこの記事をもって代えるとしており、全国関係者の配意を編集委からもお願いします。

申しこみ用紙は、本誌最終頁に刷りこんでありますのでご利用下さい。

○……全国クラブハンドボール静岡大会……○

▽主催　東海ハンドボール協会▽後援　日本ハンドボール協会、静岡県体育協会、静岡新聞社▽主管　静岡県ハンドボール協会▽期日　昭和52年7月16日(土)、17日(日)の2日間▽会場　静岡市民体育館、静岡県営草薙体育館▽参加資格(1)各都道府県協会が推せんしたチーム(2)昭和52年度日本協会に登録したチーム、(3)全日本学連、全日本教職員連、全日本自衛隊連、全日本実連に登録したチーム及び個人は参加できない▽参加チーム数、男子の部16チーム、女子の部8チーム（1チーム監督・選手15名以内）▽参加申しこみ期間　6月5日から6月25日まで受けつけ▽申しこみ先、静岡県清水市青葉町1番地・清水市立商業高校内、片瀬喜代次宛（〒424　電話○五四三―53―五三八八）▽参加料　1チーム五千円（申しこみ書と同時に納入して下さい）▽宿泊料　1人一泊二食四千円（税金、サービス料金こみ）▽表彰　優勝チームに優勝杯と個人賞、準優勝チームに準優勝楯と個人賞▽備考(1)第1試合の開始時刻を7月16日正午としますので関東、北陸、関西、中国地域でも前日宿泊しなくても参加できます。(2)男子1回戦2試合の4チームはつとめて近県同士のカードとします。(3)組合せの決定は主催者が行い、競技日程などは参加チームの責任者に通知します。(4)参加チームは審判有資格者を1名（監督選手でも可）を同行させて下さい。(5)障(傷)害の救急処置は主管者で行いますが、じ後の責任は負いません。

全国高専は8月25日から

日本協会は、日程が未定のままだった第4回全国高専選手権を8月25日から27日までの3日間秋田県立体育館、秋田市立体育館で開くと発表した。参加は地域推せんの16校、申しこみ〆切りは7月20日である

乗鞍(岐阜)で少年団キャンプ

岐阜協会は、今夏も8月4日から6日までの3日間、高山市の「国立乗鞍青年の家」で全国スポーツ(ハンドボール)少年団交歓会を開くと発表した。

この催しは、昨年初めて試みられ、愛知、岐阜県下から六つのスポーツ少年団、ハンドボール少年団から父兄も合わせて120名が参加、合同練習や室内遊戯、交歓ゲームなどを行って多くの反響をよんだものである。

参観した勝繁夫日本協会理事(普及指導委員長)や普及関係者などから、継続的な事業とすることが要望され、岐阜協会ではこのほど、今夏、第2回大会を開催することに決めた。

6月10日ごろ要項が発送され、6月末日〆切りの予定だが、期日は8月4、5、6の3日間、会場は、前年と同じ高山市「国立乗鞍青年の家」。雨天体育館なども新たに完成しており、すでに岐阜協会では250名分の予約をすませている。=下欄に関係記事

女子クラブ大会も

「ギフ・カップ」と銘打ち女子クラブによる初の全国大会として昨年12月、話題をまいた全国女子クラブ選手権大会岐阜大会が、今年も12月17、18日岐阜市の岐阜県民体育館で行われる。

参加チームは、全国9ブロック理事長から推せんされた8チームと招待8チームの合わせて16チームで、今年から敗者トーナメントも行われる予定=下欄に関係記事

すでに6割強が納入

50、51年度組織協力金

日本協会事務局は、このほど昭和51年度決算をまとめたが、50、51年度にまたがって納入を定められていた「組織協力金」470万円(1都道府県協会10万円)のうち、昨年度末までに300万円(64%)が払いこまれている、と発表した。

「役員協力金」などと合わせた未納総額は約217万円だが、新年度(4月以降)に入金しているものも多く、今年度内には満額納入される見通しである。

初の委員に中沢重夫氏

日本ユニバシアード委

日本ユニバシアード委員会(JUSB)は4月25日東京で会合、準加盟扱いの学識経験委員として全日本学生ハンドボール連盟理事長・中沢重夫氏(芝浦工大出、日本協会理事)を選任した。

全日本学連は、かねてから日本協会を通じ、同委への加盟を申請していたもの。

中沢委員の話 ハンドボールはユニバシアードからはなれ、単独の世界学生選手権を開いている。

欧州各国は現行支持が圧倒的だが、日本はユニバシアード加入が望ましい。

これまでは、それを動議しようにもルートがなかったが、今後は折をみてJUSBから働きかけてもらうようにしたい。

「第2回全国スポーツ(ハンドボール)少年団交歓会乗鞍山大会」と「52年度全国女子クラブ選手権岐阜大会~ギフカップ~」についてのお問合わせは岐阜県羽島市竹鼻町大西、羽島高等学校内「岐阜県ハンドボール協会事務局・岡田重博」氏あて。郵便番号五〇一—六二

6月19日に全国理事会

日本協会は、6月19日午前10時から、新年度初の全国理事会を東京渋谷の岸記念会体育会館で開くことに決めた。

新ナショナルチームのコーチングスタッフと男女選手が発表される予定だ。

17日から日韓学生交流

36名の選手団送る

全日本学連は6月17日から24日まで韓国各地で行われる第11回(女子第6回)日韓学生交流に出場する全日本学生代表チーム(藤松博団長ら役員8、男女選手各14)を上掲のように決め発表した。

一行は6月16日午前10時30分羽田空港発、25日午後2時25分帰国(羽田)の予定。

過去の通算成績は男子が日本側の48戦28勝3分17敗(うち11人制6戦6勝)、女子が日本側の18戦7勝1分10敗。女子は昨年の交流で日本チームが4連敗(4戦)しており、今回の成績に注目が集っている。

日韓交流全日本学生代表

～役　員～

役職	氏名	年齢	所属
・団長	藤松　博	(46才)	全日本学連会長代行
・監督	藤原　侑	(35)	日体大女子監督
・総務	市川　孝夫	(39)	全日本学連理事
・随行審判員	福田　英明	(39)	九州学連理事
・男子コーチ	大西　武三	(31)	筑波大監督
・女子コーチ	樫塚　正一	(32)	武庫川女大監督
・マネジャー	松下　信宏	(21)	中大4年
・マネジャー	渡辺富士子	(21)	日本女体大4年

～選手(○内数字は学年)～

〔男子〕

	氏名	所属	身長	出身校
・GK	大畑　孝広	(日　大③)	183cm	静岡農高
	須波　雅人	(筑　波③)	184	富山高
・FP	○洞ケ瀬直幸	(早稲田④)	181	市川高
	北里まこと	(早稲田④)	170	東村山高
	新井田　司	(日　大④)	180	函館有斗高
	○長野　透	(中　央④)	176	熊本市商
	○大西　和雄	(日　体④)	170	佐野工
	○勝地　文雄	(慶　応④)	176	慶応高
	○生駒　靖夫	(京都産大④)	183	生駒高
	島中　明	(大阪体大④)	178	乙訓高
	木下　徳文	(大阪経大④)	180	日加高
	高橋　良輔	(名　城④)	168	都島工
	佐々木信男	(東北学院④)	177	仙台育英高
	白井　正彦	(筑　波③)	170	池田高

〔女子〕

	氏名	所属	身長	出身校
・GK	大森　幸子	(日　体④)	163	国学院栃木高
	堀田小和子	(日　体④)	161	有機高
・FP	藤井日出子	(日　体④)	164	明倫高
	寺尾真知子	(日　体④)	167	吉原高
	森　典子	(日　体④)	166	三本松高
	矢野　弥生	(日　体②)	156	京都精華女高
	恒川　薫	(武庫川女③)	166	市郡高蔵高
	福島　恵子	(武庫川女③)	160	津女子高
	今井　晴美	(武庫川女②)	156	大谷高
	甲斐　恵子	(東女体④)	155	山陽女高
	川波　理子	(東女体②)	158	筑紫女学園
	今木　通代	(中　京④)	158	粉河高
	森戸由紀子	(筑　波③)	157	栃木女高
	加藤みどり	(大阪体大③)	153	岐阜商

・男子○印は今春の世界学生選手権代表

日本（実業団選抜）1勝にとどまる

意欲示す韓国女子界

第6回日韓女子社会人交流は4月30日から5月5日まで全日本実業団女子選抜（近藤金博団長ら役員2、選手16）が遠征、5試合を行った。

日本のオリンピック好成績に刺激されて、意欲的な頂点強化対策を打ち出したと伝えられていた韓国女子界は、新進実業団・韓国造幣局をはじめ社会人層の充実が目立ち、若手による日本は、学生チームから1勝をあげたにとどまった。

来春、世界選手権アジア予選が予定されるだけに、日本協会も今回の成績を重視している。

通算成績は、日本側の27戦16勝1分10敗。

僅差はね返せず

第1戦・韓国造幣公社との試合は4月30日午後3時から大田の忠武体育館で行われた。審判＝柳寅吉、黄水淵、観衆＝約二千

韓国造幣公社 17（9－8、8－7）15 全日本実業団選抜

【造幣・身長】	得		得	【日本】
李　栄姫・167	0	GK	0	山本
朴　英淑・160	0	GK	0	丸山
李　明淀・164	0	FP	1	折口
金　順淑・166	4	FP	1	横山
梁　玉姫・166	2	FP	0	大場
林　礼順・172	0	FP	5	鈴木
李　順南・161	0	FP	1	山井
李　相玉・167	7	FP	0	林
任　昌淑・162	1	FP	1	池渕
金　明恵・160	1	FP	0	中川
金　福順・164	0	FP	0	晴山
金　正淑・172	2	FP	6	小島
	17	PT	15	
	（4）		（4）	

○……ただでさえ緊張する遠征第一戦に、二千をこす観衆のかん声が重って日本は、思うような試合運びができず、しかも開始3分、ロングヒッターの晴山が負傷（ヒザ）、いっそう戦いを苦しいものにした。

韓国造幣局は、昨年チームが発足したばかりというが李相玉（忠州工専）、金順淑（永登浦女商）らの優秀選手を軸にサイド、ポスト、速攻、スカイプレーと多彩な攻め口をもっていた。

それでも、日本は小島がPTを確実に決めるなどして、点差を詰めていた。

しかし、決定力でわずかに優る韓国は、後半10分までに李相玉の活躍で16－11と主導権を握った。日本はそのあと1点差まで反撃したが残り1分逆速攻から2点差とされた。

後半の追撃とどかず

第2戦・韓星女大との試合は5月1日午後2時から釜山の九徳体育館で行われた。審判＝李善行、金広錫、観衆＝約二千

韓星女大 13（7－3、6－7）10 全日本実業団選抜

【韓星】	得		得	【日本】
金貞姫	0	GK	0	山本
孫美子	0	GK	0	丸山
李延礼	1	FP	1	折口
金順愛	0	FP	0	清水
姜善粉	3	FP	1	大場
李外子	0	FP	2	鈴木
姜京義	6	FP	3	山井
宋賢淑	0	FP	0	林
張泉姚	0	FP	0	横山
金貞玉	0	FP	0	中川
金鍾淑	0	FP	0	池渕
李福姫	3	FP	3	小島
	13	PT	10	
	（0）		（4）	

○……34m×20mという狭いコート。日本はパス、走りとも最後までタイミングが合わず、ずるずると押し切られてしまった。

韓星は、学生チームらしくスピードがあり、前半は完全に日本が後半となった。

後半になって、日本はようやくコートにもなれ、山井の連続ゴールなどで追撃、14分8－9としたが、そのあと追加点が約7分間なく、韓星に立ち直りを許してしまい、残り10分となって4点を失い大場、山井で反撃したものの逃げ切りを許した。

全日本実業団女子選抜

・団長　近藤　金博（42）
・監督　白神　邦雄（36）
・選手

		所属	身長
GK	①山本　福代	（ブラザー工業）	164cm
	⑫丸山加代子	（立石電機）	166・
FP	⑧斉藤ゆき子	（日本ビクター）	155(1)
	⑪小島　和子	（日本ビクター）	165(17)
	②折口　律子	（東京重機）	150(12)
	⑭横山祐美子	（東京重機）	160(1)
	⑤鈴木　洋子	（ジャスコ）	161(10)
	⑦林　節子	（ジャスコ）	159・
	⑥山井マチ子	（日立栃木）	158(6)
	⑩晴山　節子	（日立栃木）	168(2)
	③席定　洋子	（大崎電気）	161・
	④大場　祐子	（大崎電気）	165(3)
	⑮池渕　澄江	（立石電機）	160(1)
	⑨中川しげみ	（ブラザー工業）	158(1)
	⑬清水みよ子	（東北ムネカタ）	170(3)
	⑯宮本　啓子	（大和銀行）	165・

・○内数字は今回の背番号
・右欄（　）内数字は今回の通算得点

白神邦雄監督の話　日本は若い選手が多く、勝負どころでミスがあった。

韓国勢の力も、着実にあがっており、"いつでも勝てる"相手ではなくなってきている。

しかし、日本のナショナルならば問題はないと思う

丸山好守、連敗救う

第3戦・忠州工専との試合は3日午後4時から清州体育館で行われた。審判＝韓洙鎮、金英勲、観衆＝約五千

全日本実業団選抜 13（5－5、8－7）12 忠州工専

【忠州】	得		得	【日本】
具滋香	0	GK	0	山本
李撥子	0	GK	0	丸山
李明淑	0	FP	3	折口
宋京順	0	FP	1	清水
李京姫	6	FP	1	大場
張順福	1	FP	1	鈴木
洪承玉	2	FP	1	山井
禹相順	0	FP	0	林
劉善鎬	0	FP	0	横山
李起華	0	FP	6	小島
宋南竜	2	FP	0	中川
洪京淑	1	FP	0	宮本
	12		13	

○……昨年、日本の学生が完敗した忠州工専、日本でいう短大である。

日韓高校交流で関係者の舌をまかせた李京姫（168cm）、洪承玉（162cm）らが進学、李がさらに鋭さを加え6ゴールを奪った。

前半は、たがいに凡プレーが多くチャンスを逃していたが、後半はリズムをつかんで激しい点のとりあいになった。

10－00から日本は15分すぎ小島の連続ゴールでリードを奪ったが忠州も粘り、13－12と追いこんでタイムアップ寸前絶好機をつかんだが、日本のGK丸山がよく防ぎ切り、連敗を救った。

男子の大学定期戦が同時に行われ、主催者の話ではスタンドのファンは五千を数えたそうだ。

自滅で勝利逸す

第4戦・仁川市庁との試合は4日、仁川体育館で行われた。審判＝許勲、金光烈、観衆＝二百

仁川市庁 13（7－6、6－3）9 全日本実業団選抜

【仁川】		得
GK	崔聖姫	0
FP	黄分徳	0
	趙泰順	0
	趙喜順	1
	朴妙順	4
	金敬愛	2
	任順金	0
	朴玉景	5
	李南子	0
	呉永順	1

【日本】		得
GK	山本	0
	丸山	0
FP	折口	3
	小鳥	1
	大場	0
	鈴木	2
	山井	1
	清水	2
	中川	0
	晴山	0
	席定	0
	林	0

9（1）PT（2）13

○……仁川は2年前来日した時とほとんど同じメンバー、朴妙順（167cm）が相変らず切れのよいフットワークでエース格だが、この日は朴玉景が立ちあがり連続ゴールして目立った。

日本は10分すぎからようやくコンビネーションがととのい、清水のパワー、折口の技で20分6－7と追いあげた。

後半、1点のリードで余裕のある仁川は、積極的な攻めから10分9－7、さらに金敬愛のゴールなどで追加点、20分12－9と着々差をあげた。

日本は、15分すぎ鈴木、山井で反撃のきっかけをつかみかけたが、そのあと一押しがなく、ここが勝負の岐れ目になった。

第1戦より差つく

第5戦（最終戦）は、韓国造幣公社との2回戦として5日午後2時30分から、ソウルで行われた。観衆＝五百

韓国造幣公社 19（12－3、7－7）10 全日本実業団選抜

【造幣】		得
GK	李栄姫	0
	金花英	0
FP	李明淑	1
	金順淑	2
	李相玉	7
	梁玉姫	1
	林芸順	0
	李順南	0
	任昌淑	0
	金明恵	3
	金正淑	1
	金福順	4

【日本】		得
GK	山本	0
	丸山	0
FP	折口	4
	中川	1
	鈴木	0
	小鳥	1
	大場	1
	清水	0
	山井	0
	晴山	2
	横山	0
	斉藤	1

10（1）PT（4）19

○……会場はソウルにある永登浦商高体育館。

第1戦で敗れた相手とあって、日本は雪じょくのファイトに燃えていたのだがウォーミングアップの時間不足がたたり3分1－2のあと、李相玉、金明恵、金正淑らになだれこまれて5点を失い、12分斉藤が1点を返したものの、そのあと再び連続3失点、20分10－2とリードされてしまった。

後半は、日本もディフェンスがどうにか立ちなおり、相手の攻撃を最少限に食いとめたものの、攻撃はいぜんまとまりがなく、折口の連続ゴールなどで7分5－13としたのが精いっぱい。

15分すぎ金福順の連続3ゴールなどで追いあげの気力をおさえつけられた。

韓国が第一戦より、数段動きがよかったのに対し、日本は疲れものぞいて、ショックな9点差の完敗であった。

日韓の差 急速に詰まる

□……日本側にコンディション面のハンデがあったとはいえ、ナショナル予備軍ともいうべき、実業団の若手選抜が、1勝にとどまったのは、昨年の学生交流で、忠州工専（韓国）に総ナメを食った以上のショックとなって、日本女子界へ撥ねかえったようだ。

近藤団長（東京重機監督）、白神監督とも、日本チームのキャリア不足、コートの狭さや、緒戦でロングヒッター・晴山（日立）が負傷したマイナスをあげながら、韓国の実力については、はっきりとレベルの向上を認め「その差を詰められた」としている。

□……もともと、韓国女子の個々が持つボールゲームセンスは、日本関係者の警戒するところであり、もし、強化に本腰がいれられたら〝日本独走〟がおびやかされるといわれていた。

仁川市庁、韓国造幣局といった公共事業体に優秀選手を集めたチームが生まれたのは、この〝心配〟の現実化である。特に造幣局はレスリング、ウエイトリフティングなどでオリンピックを目指す有力選手を抱えており、ここに長身選手主体の女子チームが発足した目的は明きらかだ。

□……発足したての日本協会女子強化委員会では、早速、今回と6月の日韓学生交流の結果を分析して、来年春に予想される第7回世界女子選手権アジア予選の対策をこうじる、としているが、来春はとも角、モスクワオリンピックのアジア予選（一九七九年？）は、今のままでは、予断を許さなくなる。去年の学生交流後、荒川日本協会理事長は「今までは差が開きすぎ、その影さえも見えなかったが、どうやら、姿が判るところまで追いあげてきた」と韓国女子界を評したが、今回の結果は姿どころか、あし音さえも聞こえる距離に迫られた感じだ。しかも追撃急である。

ましてや、6月19日発表といわれる新ナショナルチームから、島田、蔵田（ともに立石電機）の〝引退〟が確定的であり、名手・古佐原（重機）もコーチ専念が伝えられ、進退微妙。キャリアの面でも日本優位とはいい難くなる。

□……「全般的な力と技はまだまだ日本が上」と近藤団長は、トップクラスの実力を信頼しているが〝モントリオール5位〟に安心して世界のトップばかりに目を注ぎすぎると、足元がぐらつくことを今回の成績は警告している。

名大クも韓国遠征

名大ク（愛知、現役を含む）では5月1日から5日間、韓国を訪問し各地で4試合を行なった。

釜山では折から遠征中の全日本実連女子選抜対韓星女子大戦の前座試合として行なわれ、釜山大メンバーに市聖福、李鐘七が加わりこの2人にかき廻された。

4月の大会で成均館大を破って韓国ナンバーワンとなった圓光大はさすがに強く、同じく第3位となった仁荷工専戦ともいい勉強になった。

韓国外国語大は大学2部チームであり、趣味としてのハンドボールという色彩が強く、親善には大いに役立った。

成績次のとおり。

▽第1戦（5月1日・釜山市九徳体育館）

釜山大ク 32（13－11、19－11）22 名大ク

▽第2戦（2日・裡里市圓光大体育館）

圓光大 29（13－3、16－8）11 名大ク

▽第3戦（3月・仁川市体育館）

仁荷工専 23（14－6、9－11）17 名大ク

▽最終戦（4日・ソウル市韓国外大）

名大ク 22（10－8、12－6）14 韓国外大

恒例・アンケート特集

全国有力80チーム ことしの新陣容

本誌恒例の新陣容アンケート。編集委・選120のチームのうち回答があった80チームをご紹介（ABC順）しよう。
なお、日本リーグ勢は除き、高校・高専界は昨年度優勝校のみ
点線の上段は主戦メンバー（KはGK、FはFP）と身長（cm）
下段は主な新人と出身校（または前所属）。

男子

AOK栃木（栃木）

K菊地政 175
F小竹 178
新井 178
島田 174
菊地美 179
柳沢 170
左藤 170
相監 165

……………………

福田（足利工）

愛知教員（愛知）

K唐沢 172
F小川 182
深津 178
斉藤 172
藪野 170
松浦 171
長縄 170
細川 168

……………………

上原（東京教大）
井上（日体大）

ブリチストンタイヤ久留米（福岡）

K原嶋 183
F木下 176
小柳 173
秋吉 175
高田 170
轟 165
中島 172
牛島 168

……………………

なし

千葉教員（千葉）

K釜谷 176
F佐藤 172
氷海 180
松 176
浅原 170
上坂 180
内記 176
篠塚 172

……………………

釜谷（日体大）

セントラル自動車（神奈川）

F吉田 175
K羽毛田 169
加藤 176
根本 167
木村 170
高木 167
中村 174

……………………

林（下関中央工）
岸野（下関中央工）
小山（法大）
岩崎（水俣工）
前田（古川商）
佐藤（仙台育英高）
関根（学法石川高）
小沢（函館大谷高）
迫田（隼人工）
笠継（鹿児島実業高）

中京ク（愛知）

K千田 181
F中板 172
布垣 173
三宅 176
丹羽 168
横井 168
安藤 165
稲葉 163

……………………

近藤（中京高）

広島大（広島・中四国学連）

K池田 184
F木村 176
藤井 176
金本 168
高橋 173
板井 168
久保田 168
高木 170

……………………

山下（呉三津田高）
万代（呉三津田高）
大久保（松江北高）
望月（静岡高）
出原（井原高）
阿久根（三国ヶ丘高）
高（広高）
大矢（浜田高）
伊藤（音実高）

広島修道大（広島、中四国学連）

K石田 173
F川地 165
林 175
小坂 185
後藤 170
三分一 175
佐伯 160

……………………

小椋（岩国高）
梶山（広高）
森川（新庄高）
向井（松山西高）
中野（呉宮原高）
松浦（大田高）

氷見ク（富山）

K上野 182
F高橋 170
解田 170
関 168
沢武 168
中山 174
坪川 176
海下 172

……………………

松室（氷見高）
上宝寺（氷見高）

福島SGク（福島）

K石井 178
F遠藤 180
真田 166
上野 179
石森 176
三浦 174
菅野 175
西坂 174

……………………

小野（聖光高）
名和（聖光高）
佐藤（東北工大）

福井教員（福井）

K松岡 187
F島田 170
志々場 167
大塚 177
内田 168
庄司 177
笠羽 167
谷口 184

……………………

松岡（大阪体大）
川村（大阪体大）
谷口（東京学芸大）

北陸電力福井（福井）

K杉森 171
F佐々木 172
加藤 172
吉田 175
揚原 174
乾 176
小原 173
土本 170

……………………

土本（北陸高）

法政大（東京・関東学連）

K塚本 180
（浦田 180）
F中野 174
角本 184
北本 186
田尻 174
中村 180
吉田 176

……………………

矢作（川口工）
会田（川口工）
道祖土（菖蒲高）
飯塚（富岡高）
三浦（亀山高）

北大（北海道・北海道学連）

K尾尻 171
F山室 169
内川 172
作野 169
柿崎 176
神山 174
飯山 168

……………………

赤塚（大阪三国丘高）
加藤（東海高）
西村（札幌西高）
甲谷（釧路湖陵高）
嶋田（三田学園高）
住田（明和高）
古市（岡山玉野高）

一関高専（岩手）

〜昨年度全日本高専優勝〜

K横手 171
（泉 180）
F菅野 173
村上 169
菊池 175
千田 168
田代 177
今出 172

……………………

鈴木（東山中）
赤坂（東山中）
井上（鹿島台中）
千葉（鹿島台中）
川名（田尻中）
三浦（中田中）
千田（舞川中）
佐藤（北陵中）

自衛隊勝田（茨城）

K渡部 174
F宮川 172
小松 178
藤枝 180
額賀 168
高岡 175
大坂間 168
野高 170

……………………

斉藤（麻生高）

金沢工大（石川・北信越学連）

K杉浦 178
F清水 177
石井 177
城山 176
宮本 180
滝山 179
望月 177
帆角 174

……………………

喜多（彦根工）
由良（育英高）
古屋（加賀高）
佐藤（三本松高）
坂本（松江高）

神埼ク（佐賀）

K北島 168
F梅崎 169
田中清 176
小柳 173
城野 173
井手 167
草場 164
江口 165

……………………

江越（佐賀商）
平尾（神埼農）
田中弘（佐賀農）

熊本トヨタ自動車（熊本）

K小川 175
F秦 173
毛利 173
坂田 177
永田 172
西 168
鶴島 165
広野 167

……………………

小川（熊本商大）
西（熊本短大）

慶応義塾大（東京・関東学連）

K加藤 176
F保坂 176
野本 179
草皆 173
勝地 176
常川 172
山本 168
上西 169

……………………

北川（慶応高）
林（慶応高）
松下（慶応高）
炭本（慶応高）
河野（修道高）
加古（桜台高）
小野（札幌南高）

神戸製鋼所（兵庫）

K大谷 177
F江口 172
北田 178
須藤 186
笹野 173
河内 170
柴田 165
山崎 172

……………………

なし

丸善石油千葉（千葉）

K	福本	180
F	昆野	165
	川端	175
	松井	173
	石川	173
	八木	175
	岡田	170
	西崎	170

なし

丸善石油松山（愛媛）

K	塩田	177
F	石川	172
	谷	170
	木村	175
	小笠原	170
	篠原	180
	神野	170
	伊藤	177

なし

丸善石油下津（和歌山）

K	海端	176
F	刀祢	176
	松本	177
	金谷	172
	北畑	176
	加古	176
	中崎	179

なし

明治大（東京・関東学連）

K	鈴木	173
F	辻	175
	松本	177
	伊形	171
	三上	180
	鶴川	175
	浅谷	172

伊形（マリスト学園）
三上（青森高）
鶴川（馬頭高）
浅谷（桜台高）
片山（徳山高）
金丸（大安寺高）
西本（佐世保西高）

三井石油化学千葉（千葉）

K	渡辺
F	田中
	高重
	佐藤
	村井
	相田
	中村
	河村

なし

三井石油化学岩国（山口）

K	杉弘	175
F	村上	178
	作花	167
	大村	174
	森重	167
	中倉	165
	和田	170
	前田	170

なし

長野教員ク（長野）

K	小島	174
F	岩下	173
	高橋	172
	藤森	182
	矢島	172
	竹内	174
	小林	173
	内藤	172

竹内（東京教大）

日鉄建材（大阪）

K	長	171
F	若本	174
	森田	178
	素原	172
	玉嶋	174
	清原	180
	池辺	170
	南野	170

清原（府立高専）
外山（初芝高）

日本碍子（愛知）

K	上田	170
F	伊藤健	167
	広田	161
	柵瀬	175
	梅岡	168
	栗山	180
	飯田	180
	増元	168

伊藤吉（四日市工）

日体大（東京・関東）

K	吉村	177
F	大西	170
	越石	173
	池之上	185
	谷藤	168
	工藤	177
	松井	178
	坂本	173

井藤（下関中央工）
溝部（下関中央工）
池田（横浜南高）
酒井（坂城高）
成願（佐野工）
野村（日体荏原高）
村井（大阪学院）

日本原子力研究所（茨城）

K	佐藤	173
F	安達	173
	菊地	170
	秋山	173
	相沢	171
	川上	164
	清水	175
	砂押	170

なし

日本発条（神奈川）

K	清水	175
F	福田	169
	伊沢	176
	石塚	170
	井上	178
	及川	I85
	守田	170
	北村	172

舛屋（芝浦工大）

大山商会（大阪）

K	川原	182
F	奥川	175
	前島	178
	伊藤	176
	川村	183
	山口	173
	根木	180
	福井	173

西辻（近大）
山下（佐野工）

大阪ガス（大阪）

K	足達	172
F	小西	170
	藤井	170
	竹内	170
	高津	170
	金森	170
	竹ノ内	170
	門口	165

八木（京大）
松本（京大）
竹志（小倉工）
山下（長崎工）
砂内（宇部工）
中西（大阪瓦斯高）

大阪体育大（大阪・関西学連）

K	青木	173
F	稲田	168
	多田	170
	島中	178
	門河	180
	前田	172
	藤井	175
	志賀	188

安田（久留米工）
矢永（久留米工）
植（大阪市高）
竹内（鈴蘭台高）
小山田（函館大谷高）
水野（武庫工）
三谷（山陽高）
松枝（島本高）
砂川（浪商高）
亀井（北陽高）
近藤（明石商）
金子（宇和島南高）
上野（那賀高）

琉球大（沖縄・九州学連）

K	大城伸	170
F	平田	175
	大城啓	170
	金城淳	168
	武村	172
	川畑	166
	金城辰	170
	島袋	168

上江州登（那覇高）
伊計（那覇高）
佐久本（那覇高）
知念（前原高）
宮久山（前原高）
松尾（門司高）
上江州道（小禄高）
米識（八重山高）

佐世保ク（長崎）

K	神山	172
F	本田	165
	山高秀	165
	山高邦	166
	浜野	167
	末永	166
	田添	174
	園田	162

山高良（佐世保工）

三陽商会（東京）

K	吉近	174
F	近森	183
	竹村	175
	稲木	172
	緒方	170
	石原	160
	鵜沢	180
	梅屋	185

関（中大）
坪子（中大）
田中（日体荏原高）
坂野（岩井高）

静岡県教員団（静岡）

K	山口	180
F	入山	175
	杉山	178
	寺田	178
	細沢	182
	白柳	178
	小林	175

なし

下関中央工高（山口）
〜昨年度全日本高校優勝〜

K	植木	173
F	松川	174
	湯川	177
	浜本	169
	河村	169
	新宅	171
	和田	170
	大瀬良	166

河村（日新中）
神田（日新中）
小田（日新中）
山田（長府中）
宮崎（山田中）
梅林（川中）
三元

新日鉄大分（大分）

K 馬見塚 168
F 岡村 182
大杉 173
南(博) 171
吉田 175
得丸 173
江藤 173
永松 175

南(喜)(大分東高)
笠置(大分工)

住友銀行（大阪）

K 松村 170
F 長友 165
浜田 184
伊藤 170
板倉 171
戸田 172
江副 182
萩原 172

吉川(熊本市商)
岩切(鹿児島商)
足立(相原高)
北山(八尾高)

仙台大（宮城・東北学連）

K 川本 177
F 加藤 169
佐藤雅 178
谷口 178
尾張 177
白川 172
片山 173
佐藤孝 174

高橋(大曲東高)
川本(江の川高)
岡木(函館大谷高)
中野(菖蒲高)
橋山(能登川高)

武田薬品光（山口）

K 清水 170
F 長棟 168
西野 184
酒井 176
末長 174
吉田 172
三宮 167
木本 176

な し

筑波大（茨城・関東学連）

K 須波 184
F 若田 179
小西 175
橋本 180
笹倉 158
白井 170
堀越 170
山上 164

矢島(上田高)
堀(浦和西高)
香川(池田高)
高見(富山高)
西尾(岐山高)

富山大（富山・北信越学連）

K 広瀬 178
F 古見 178
森本 174
藤井 178
竹内 171
小林 178
角地

舟見(新潟高)
山村(石山高)
中野(星稜高)
姫川(新湊高)
山田(武生高)
前波(高志高)

トヨタカローラ熊本（熊本）

K 下里 187
F 竹下 174
藤島 178
渡辺 171
平岡 175
神田 171
宮本 173
西山 171

北村(大同特殊鋼)
金坂(熊本一工)
南里(佐賀商)

トヨタ車体（愛知）

K 木村 172
F 山口 175
宮松 174
横岡 178
高橋 163
山田 168
大塚 163
牧 172

木村(名城大)
志賀(大分電波高)
奈須(大分電波高)
吉田(大分電波高)
白石(大分電波高)
佐倉(名古屋市工)
西川(名古屋市工)
中川(初芝高)
林(大分東高)
辻(尾張高)

豊田合成（愛知）

K 松川 172
F 上村 173
清水 177
太田 187
服部 171
稲垣 173
小島 167
春日井 166

春日井(名大)
箕浦(岐阜工)

稲球会（東京）

K 北島 179
F 菊池 186
菅野 170
森田 178
木村 172
鈴木 181
高橋 179
山田 175

小松原(大崎電気)
鵜尾(早大学院)

東北大（宮城・東北学連）

K 岡崎 176
F 佐々木 175
大友 173
上小沢 174
杉原 173
加藤 170
木村 170

風間(甲府一高)
今野(日立一高)
湊(高岡高)
大友(仙台一高)
大野(富山高)

東北学院大（宮城・東北学連）

K 熊谷 182
F 佐々木 177
大友 175
門脇 168
井上 174
木村 183
遠藤 180
宋 176

弓場(仙台商)
伊藤(仙台商)
加藤(仙台育英高)

早稲田大（東京・関東学連）

K 安田 187
F 北里 170
洞ヶ瀬 181
武井 180
石川 176
吉見 182
筏 174
武藤 168

村崎(府中高)
諌原(府中高)
荒木(佐世保北高)
東根(盛岡一高)
植村(東山高)
菊島(日川高)
吉井(氷見高)

ワコール（京都）

K 山田 178
F 垣内 178
西沢 172
石橋 182
宮本 175
笹川 172
木森 180
福井 182

笹川(関学)
木森(関大)

山口大（山口・中四国学連）

K 飛良 173
F 新見 176
長田 181
安部 174
松浦好 177
川島 173
川上 178
山本 170

舟谷(岩国高)
白木(岩国高)
松浦明(修道高)
木谷(豊浦高)
田村(東住吉高)
高田(広島観音高)
中尾(萩高)
井上(山口高)
村上(徳山高)

締切り後到着分

男・美津濃（大阪）

K 阪本 183
F 松永 158
岡田 176
中田 166
谷本 170
小森 175
伊中 174
田中 168
石戸 171

男・九州産大（福岡・九州学連）

K 林田 175
F 金谷 173
北森 169
小林 169
坂本 170
安倍 163
高木俊 177
藤山 170

酒井(小倉工高)
舎川(小倉工高)
高木康(九産高)
橋木(九産高)
許斐(東海五高)

男・東京重機工業（東京）

K 衣笠 174
F 卯野 177
奥山 165
雨宮 166
荒井 173
牛木 172
千葉龍 171
青木 167

福地(古川工高)
佐藤(一迫商高)
千葉光(大曲工高)

男・名城大（愛知・東海学連）

K 松井 182
F 高橋 168
西浜 166
谷元 170
鈴木康 176
鈴木輝 174
安藤 180
瀬島 172

中林(名市工高)
玉井(三本松高)

男・同志社大（京都・関西学連）

K 西川 180
F 堀田 180
高杉 178
中辻 181
迫村 165
増田 178
後呂 177
大杉 176

古川(大宮高)
樫野(伊丹高)
梅崎(釧路高)
栗屋(岩国高)
小笠(池田高)

女・中京大（愛知、東海学連）

K 鈴見 163
F 今木 157
都築 163
中根 155
芦野 162
豊本 160
宮嶋 153
横本 160

永井(名古屋商)
佐々木(西陵商高)
林(彦根西高)
細井(国府高)
浅井(那賀高)
藤本(伊丹北高)
国島(大垣東高)
村田(東邦高)
矢木(入善高)
渡辺(南陽高)

野田、蔵田ら姿消す

注目の日本リーグ前期エントリーは5月25日〆切られたが、男子でミュンヘンオリンピック代表の野田(大同)、新実(本田)、昨年のベストセブン大熊(大崎)らが登録されず、女子でもモントリオールオリンピックの〝得点王〟蔵田（立石）や世界選手権3回出場を誇る名手・島田(立石)がついにユニホームを脱いだ。負傷者などを含め今季登録されなかった主な選手は次のとおり。(8、9頁参照)

▽男子＝野田、北村(大同)、新実金子(本田)、大熊、前渕(大崎)、高梨、加藤（三景）

▽女子＝島田、蔵田、田島(立石)渡辺(日ビ)、村上、町田(重機)、佐々木、楠石、国府田(ブ工)、桜庭、大岩、向井(日立)、西村、吉田（大崎）

女子

あすなろク（青森）

K花　田　165
F対　馬　160
兼　平　150
木　村　152
柿崎悦　160
柿崎久　165
丹　内　163
熊　谷　156

阿　部(青森西高)
蛯　名(青森西高)
楠　木(青森西高)

中京女大（愛知・東海学連）

K森　下　158
F立　川　152
太　田　166
青　木　160
鈴　木　160
松　下　164
万　野　155
野々宮　155

木野村(椙山女学園)
大　野(緑ケ丘商)
青　山(彦根南高)
石　塚(京都女高)
山　口(長浜北高)

北国銀行（石川）

K酒　谷　164
F千　歩　171
木　戸　173
本　田　160
庄　田　160
中　山　160
山　際　164
北　村　162

酒谷(小松市女高)
西出(小松市女高)
坂　(金沢女短大)

前橋ビジョンズ（群馬）

K中　里　160
F和佐田　150
細　野　155
柴　田　163
星　野　158
渡　辺　160
町　田　154
加　藤　155

中　里
関　口
石　井
大　畑
阿久津
(いずれも前橋市女高)

武庫川女大（兵庫・関西学連）

K岡　本　160
F佐　野　153
福　島　160
恒　川　165
木　下　163
桝　井　157
今　井　156
榎　崎　172

清　水(北条高)
佐々木(新居浜商)
関　谷(津女高)

日本体育大（東京・関東学連）

K大　森　163
F藤　井　164
寺　尾　167
　森　166
坂　村　155
　瀬　154
矢　野　154
梅　山　155

鈴　木(昭和学院高)
田　中(小松市女高)
石　島(国学院栃木高)
並　木(深谷一高)
山　口(長崎日大高)
増　山(栃木女高)
丸　岡(京都女高)
比　嘉(興南高)
冬　木(日体桜華高)
中　島(半田高)

日本女子体大（東京・関東学連）

K山　岸　157
F高　村　162
奥　富　154
佐　藤　163
山　田　160
江　畑　164
佐　瀬　155
池　田　154

鈴　木(群馬女短付)
佐々木(古川女高)
塚田(美須々ケ丘高)
桑　代(小平高)
遠　藤(梁川高)

寝屋川ク（大阪）

K片　山　165
F畑　中　158
太　田　150
名賀三　160
津　熊　152
富　居　160
和　田　151
竹　田　150

林　(寝屋川高)
中　宋(寝屋川高)
大　薮(寝屋川高)
西　村(寝屋川高)
小　林(寝屋川高)
大　石(寝屋川高)
古　賀(寝屋川高)
名賀啓(長尾高)
土　居(東京教大)

大阪体大（大阪・関西学連）

K柴　田　164
F松　本　161
中　津　152
大　竹　161
加　藤　152
野　村　156
藤　井　158
浅　井　157

市　原(明石北高)
中　里(明石北高)
飯　島(水戸三高)
辰　巳(大谷高)
横　井(三本松高)

岡山県立短大（岡山・中四国学連）

K勝　治　165
F中　西　162
正　本　160
早　崎　162
隅　谷　158
藤　野　156
藤　原　159

藤野(山口中央高)
隅谷(邑久高)
藤原(金川高)
時松(青陵高)

大分東高（大分）

～前年度全日本高校優勝校～

K川　津　162
F穴　見　154
北　山　159
松　岡　154
藤　沢　165
安　倍　158
坂　田　155
山　本　157

三　浦(鶴崎中)
田　中(大島中)
斉　藤(野津原中)
鈴　木(明野中)
近　藤(大東中)
土　田(中部中)

三洋電機岐阜（岐阜）

K稲　垣　166
F古　沢　160
河　合　155
新　垣　153
下之段　156
鳥谷部　158
吉　田　156
赤　井　160

片　平
譜久島
槙　前

筑波大（茨城・関東学連）

K松　永　162
F清　水　155
坂　本　166
野　村　161
菊　池　165
森　戸　157
南　出　158
青　木　161

富　山(春日丘高)
藤　岡(松山西高)
国　松(奈良高)
朝　賀(高志高)

徳山ク（山口）

K通　山　166
F川　口　161
赤　岸　156
伊　藤　166
上　井　161
伊ケ崎　163
小　川　161
高　木　160

小　川
伊ケ崎
上　井
高　木
通　山
(いずれも徳山高)

東京学芸大（東京・関東学連）

K芳　賀　159
F松　田　155
白　井　150
渡　辺　156
斉　藤　159
高　橋　159
山　木　156

海　野(井草高)
西　脇(浦和西高)
茂　木(前橋女高)
稲　山(松原高)

東北ムネカタ（福島）

K熱　海　164
F有　賀　164
鈴木郁　164
本　郷　155
清　水　170
近　内　155
鈴木栄　162

野　村(小川中)
物　井(小川中)
清　水(緑ケ丘高)
石　田(七戸高)
加　藤(古川女高)
川　音(石川高)
渡　辺(本宮高)

東京女子体大（東京・関東学連）

K横　田　165
F甲　斐　155
古　賀　157
磯　山　159
川　浅　159
畠　田　161
石　橋　150
藤　本　160

石　橋(沖埼農)
今　泉(神埼農)
馬場崎(神埼高)
大　串(東邦商)
浜　村(熊本女高)
藤野本(小松市女高)
小　森(筑紫女学園)
坂　本(神戸女商)
渡　部(進徳商)
高　松

和歌山県商工信用組合（和歌山）

K坂　田　159
F山　口　160
木　村　163
中　田　159
古　田　151
清　水　158
丸　山　160

伴　(県和歌山商)
小松(粉河高)

山口大（山口・中四国学連）

K矢　野　160
F高　木　159
秋　村　159
森　田　155
斉　藤　157
安　武　156
原　161

小　川(徳山高)

春季学生リーグ

早稲田、5シーズンぶりで栄冠

健斗した筑波、日大

関東

新たに創価、拓殖の両校が加盟1～5部各8校、6部13校の計53校によって4月23日から5月21日までの10日間、駒沢屋内球技場、駒沢体育館（3部以下は駒沢グランド）で熱戦をくりひろげた。

1部は、第1日、法政が5連覇目指す中央を破る波乱の幕あけとなったが、各校激しい星のつぶし合いをぬって早稲田、筑波、日大が、比較的バランスのとれた攻守で勝ち進んだ。

第5日からこの三校の激突となり、まず早稲田が日大を押しまくって快勝、第6日の早稲田×筑波大が最大のヤマとなった。

両校がリーグ首位をかけて対決するのは、筑波が東京教大時代の25年秋（11人制）以来。筑波にとっては23年秋、文理大を名乗っていた時代から実に29年ぶりに迎えた優勝のチャンスだった。

試合は、早・安田、筑・須波両GKの美技、好守の応しゅうを軸に、期待どおりの白熱戦となったが、早稲田はエース洞ケ瀬を負傷で欠きながら、後半なかば吉見、犬飼、後ら巧者の活躍で先行、筑波の猛迫を振り切った。最終日筑波×日大が引き分けたため自動的優勝となったが中央戦も気力勝ちして全勝（9度目）、5シーズンぶり通算12度目の優勝を飾った。

日大は、終盤やや乱調となったが、秀れた個人技を巧みにチームプレーにまとめAクラスに定着したのは注目していい。

中央は、後半になり持ちなおしたものの、蒲生（大同特殊鋼）らの卒業の穴が大きく、2勝をあげただけ。42年秋以来の負けこしとなった。なお、50年5月以来つづいていた対学生不敗記録は、法政に敗れて「41」（40勝1分）でストップ。

日体、入れ替え戦へ

法政は滑り出しの好調を保てず日体は最終戦、敗れても8点差以下なら6位以内を確保できたのだが、慶応の拾て身の攻撃にあって同得失点差、規定で慶応6位日体7位となり、昭和12年部創立以来はじめて入れ替え戦（5月28日・駒沢）出場という不名誉なシーズンになった。

慶応は秀れた攻撃力をもちながら試合運びが拙く下位に甘んじたそれにしても4校が2勝1分4敗とは不安定もはなはだしい。明治は駒不足で善戦空しかった。

2部は、国士館が立教に苦戦した以外は危気ない試合ぶりで全勝49年秋についで2度目の優勝。名門・芝浦工大は2季連続の最下位

3部は防衛大の独走で2度目、4部は東京工大が東洋をかわした5部は最終戦の東京経大×一橋にかかり、東京経大が押し勝ち3度目、6部は2組の予選リーグのあと、各組同位で1～13位を争い、都留文化が神奈川大を制して2度目の優勝となった。

各部の得点王は、1部が47点の勝地文雄（慶応）で初、2部は53点の角田源二（明星）が50年春季についで2度目。3部は53点の牧田嘉己（防衛大）が50年秋についで2度目。

法政、中央の連勝阻止

▽男子1部

筑波 19（10－7、9－7）14 日体
日大 16（5－6、11－8）14 慶応
早稲田 29（15－4、14－2）6 明治
法政 17（9－7、8－8）15 中央
中央 27（15－6、12－3）9 明治

法政 16（3）PT（1）15 中央

得	【法政】		【中央】	得
0	浦田	GK	小松	0
0	塚本	GK	岩木	0
3	中野	FP	大久保	6
3	角本	FP	福田	0
3	水本	FP	佐藤	1
0	中村	FP	加藤	0
0	田尻	FP	長野	4
6	吉田	FP	藤井	2
0	宮本	FP	由利	1
0	金田	FP	森	0
1	鮫島	FP	和智	1
0	中島	FP	新谷	0

早稲田 16（10－5、6－7）12 法政
筑波 21（8－11、13－6）17 慶応
日大 16（6－6、10－8）14 日体

日大 16（1）PT（1）14 日体

得	【日大】		【日体】	得
0	大畑	GK	吉村	0
0	門脇	GK	井藤	0
6	新井田	FP	大西	4
4	桜井	FP	越石	0
0	山本	FP	池之上	5
0	山口明	FP	谷藤	0
3	今井	FP	越前	0
0	前島	FP	工藤	2
0	堂尻	FP	松井	0
1	山口哲	FP	長野	0
0	高梨	FP	辻本	0
2	仲田	FP	坂本	3

（審・北島・高野）

筑波 18（7－7、11－2）9 明治
早稲田 20（10－7、10－8）15 日体
日大 16（5－7、11－7）14 法政
中央 22（12－7、10－5）12 慶応
早稲田 21（13－7、8－7）14 慶応
筑波 14（8－7、6－5）12 法政
中央 18（9－11、9－7）18 日体　引き分け
日大 22（13－8、9－4）12 明治

慶応 18（7－6、11－4）10 明治

慶応 18（3）PT（2）10 明治

得	【慶応】		【明治】	得
0	加藤	GK	鈴木	0
0	辻	GK		
2	保坂	FP	辻雄	6
4	野木	FP	松本	0
3	草皆	FP	三上	1
4	勝地	FP	鴨川	0
0	加古	FP	浅谷	3
4	山本	FP	金丸	0
0	指崎	FP	片山	0
0	林	FP		
1	河野	FP		
0	北川	FP		

（審・土井・平岡）

早稲田 22（9－7、13－5）12 日大

早大 22（2）PT（2）12 日大

得	【早大】		【日大】	得
0	安田	GK	大畑	0
0	富沢	GK	門脇	0
2	北里	FP	新井田	1
0	洞ケ瀬	FP	桜井	4
7	武井	FP	山本	0
0	石川	FP	山口	0
1	横山	FP	今井	1
8	吉見	FP	前島	0
2	筏	FP	仲田	5
0	神野	FP	山口	1
2	犬飼	FP	堂尻	0
0	武藤	FP	高梨	0

（審・藤原・青木）

日体 26（13－12、13－9）21 法政

関東学生男子1部

	早	筑	日	中	法	慶	体	明	P	勝	分	負	得失差
①早稲田	…	○	○	○	○	○	○	○	14	7	0	0	
②筑波	●	…	△	○	○	○	○	○	11	5	1	1	
②日大	●	△	…	○	○	○	○	○	11	5	1	1	
④中央	●	●	●	…	●	○	△	○	5	2	1	4	16
⑤法政	●	●	●	○	…	△	●	○	5	2	1	4	－3
⑥慶応	●	●	●	●	△	…	○	○	5	2	1	4	－6
⑦日体	●	●	●	△	○	●	…	○	5	2	1	4	－6
⑧明治	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	7	

【2部順位】①国士館7戦全勝②東海5勝1分1敗③明星4勝1分2敗④順天堂4勝3敗⑤東京学芸大3勝4敗⑨立教2勝5敗(－12)⑦青山学院2勝5敗(－50)⑧芝浦工大7敗

筑波 16（8－5、8－4）9 中央

慶応 18（6－10、12－8）18 法政　引き分け

日体 22（10－10、12－2）12 明治

早稲田 16（10－8、6－7）15 筑波

○……早大はGK安田の果敢なプレーで、優勝につながる貴重な1勝をあげた。

　安田は、後半28分5秒、独走で持ちこんできた筑波・白井を、思い切りよいエリアからのとび出しでホールディング（反則）、間をあけずガラあきのゴールを狙ってきた小西のフリースローを、体勢が完全に崩れながら片手ではたき落とすという、神がかった美技をみせて防いだのだ。

【筑波】	得		【早大】	得
須波	0	GK	安田	0
酒井	0	GK	富沢	0
若田	1	FP	北里	1
小西	3	FP	武井	1
橋本	0	FP	石川	0
笹倉	0	FP	横山	0
秀永	5	FP	吉見	5
白井	3	FP	茂	3
滝口	2	FP	中村	0
佐々木	1	FP	犬飼	4
堀越	0	FP	武藤	2
山下	0	FP	舟橋	0
15	（5）	PT	（1）	16

（審・高野、藤原）

　これを決められていれば、早大は15－14と苦しくなり、筑波に勢いが移って、逆転されるピンチを迎えなければならなかったろう。

　全勝同士の激突らしく、見応えのある60分間で、特に筑波の気力にあふれた攻守は印象に残る。（杉山）

◆男子ベストセブン　GK安田　FP北里、武井、吉見（以上早稲田）、若田（筑波）、新井田（日大）、長野（中央）

昨秋につづく日大（白）の健斗はリーグ戦を盛りあげた（対早大戦）

日大 18（12－5、6－11）16 中央

法政 24（11－9、13－7）16 明治

慶応 22（10－5、12－8）13 日体

筑波 16（8－9、8－7）16 日大　引き分け

【筑波】		【日大】
須波	GK	大畑
酒井	GK	門脇
若田	FP	新井田
小西	FP	今井
橋本	FP	山本
白井	FP	桜井
滝口	FP	山口明
笹倉	FP	前島
佐々木	FP	堂尻
山下	FP	山口哲
秀永	FP	仲田
山下	FP	高梨
16	PT	16

早稲田 16（9－6、7－9）15 中央

29年ぶりの優勝お預け

□……東京教大から校名を変えた筑波大が快進撃、第6日5勝同士の早稲田と優勝を争って千人近いファンを沸かせた。

　なにしろ、前身の前身・文理大の最後の優勝が29年前の23年秋というのだから、今季勝てば、実に59シーズンぶり。

　40年にわたって関東学生リーグを見つづけている大先輩・的場益雄氏（茗球会々長）が、選手席に陣取るなど、OBの熱気も久々に高かった。

　結果は1点差の惜敗だったが、大西武三監督は「改称した最初のシーズンに低迷すると、筑波は弱いというイメージを各校に植えつけてしまう。そうならないようにといった言葉を選手たちが自覚してくれた。

　秋までにたくましさを養い、もういちどチャレンヂします」と早くも来シーズンへの闘志をのぞかせた。

　高師以来伝統の校章・五三の桐をユニホームに残す〝新星〟筑波大。今後の活躍が楽しみだ。

国士館危気なし、東海2位

▽同2部

順天堂 28（13－9、15－7）16 芝浦工大

東海 15（9－6、6－6）12 立教

東京学芸大 24（11－12、13－11）23 明星

東海 29（18－4、11－4）8 芝浦工大

国士館 18（9－5、9－3）8 青山学院

明星 29（17－13、12－7）20 立教

国士館 16（8－9、8－2）11 順天堂

青山学院 24（14－5、10－4）9 芝浦工大

国士館 27（13－13、14－10）23 明星

順天堂 16（10－5、6－5）10 立教

東海 17（7－11、10－6）17 明星　引き分け

東京学芸大 21（10－5、11－4）9 青山学院

国士館 22（12―5, 10―3）8 芝浦工大
青山学院 11（6―7, 5―2）9 立教
順天堂 24（11―10, 13―9）19 東京学芸大
明星 24（15―11, 9―6）17 順天堂
東京学芸大 27（15―11, 12―8）19 芝浦工大
国士館 18（8―6, 10―9）15 立教
東海 20（12―6, 8―6）12 青山学院
国士館 14（9―4, 5―2）6 東海

得	【東海】		【国士】	得
0	乾	GK	新垣	0
0	古元	GK	飯塚	0
0	清水	FP	原田	1
0	篠崎	FP	細野	0
0	深堀	FP	今野	0
4	吉野	FP	増田	1
0	川村	FP	岡本	3
0	宮沢	FP	佐藤	1
0	石毛	FP	野口	4
0	沢口	FP	藤村	4
2	大東	FP	柳川	0
0	阿藤	FP	古関	0
6	(3)	PT	(1)	14

（審・島田 江成）

順天堂 35（23―6, 12―4）10 青山学院
明星 37（20―9, 17―10）19 芝浦工大
立教 19（9―10, 10―6）16 東京学芸大
立教 21（14―7, 7―6）13 芝浦工大
明星 31（16―10, 15―9）19 青山学院
東海 16（10―3, 6―9）12 東京学芸大
国士館 19（14―6, 5―6）12 東京学芸大
東海 24（12―7, 12―5）12 順天堂

防衛大が7戦全勝

▽同3部
専修 17―6 上智
関東学院 12―11 駒沢
東大 11―5 茨城大
防衛大 19―16 横浜商大
駒沢 15―10 専修
関東学院 16―9 上智
茨城大 10―9 横浜商大
防衛大 15―10 東大
関東学院 14―4 東大
横浜商大 17―12 専修
駒沢 14（分）14 茨城大
防衛大 23―11 上智
横浜商大 9―6 関東学院
専修 21―14 東大
茨城大 20―8 上智
防衛大 24―11 駒沢
東大 22―5 上智
横浜商大 14―13 駒沢
茨城大 8―7 専修
防衛大 18―15 関東学院
東大 16―10 駒沢
横浜商大 32―5 上智
関東学院 11―9 茨城大
防衛大 25―19 専修
駒沢 24―4 上智
横浜商大 24―12 東大
専修 17―8 関東学院
防衛大 18―9 茨城大

▽同4部
大東文化 16―9 武蔵工大
千葉大 23―15 千葉工大
武蔵 ― 日本工大
東京工大 不戦勝 日本工大
千葉工大 20―10 武蔵
東京工大 16―12 大東文化
武蔵工大 19―15 日本工大
東洋 16―14 千葉大
東京工大 17―7 東洋
大東文化 26―14 武蔵
千葉工大 14（分）14 武蔵工大
千葉大 19―15 日本工大
東洋 16―14 武蔵工大
大東文化 23―10 千葉大
東京工大 21―13 千葉工大
武蔵 29―7 日本工大
千葉大 不戦勝 東京工大
武蔵工大 23―11 武蔵
大東文化 10―9 千葉工大
東洋 21―11 日本工大
武蔵工大 20―10 千葉大
東洋 14―12 大東文化
東京工大 27―9 武蔵
大東文化 20―11 日本工大
東洋 20―9 千葉工大
千葉大 24―23 武蔵
東京工大 27―10 武蔵工大
日本工大 14―13 千葉工大

▽同5部
東京経大 27―14 成蹊
一橋 13―9 千葉商大
東京理科大 11―7 横浜市大
埼玉大 18―4 明治学院
東京理科大 11（分）11 埼玉大
一橋 24―6 成蹊
東京経大 15―12 千葉商大
一橋 18―10 横浜市大
東京理科大 12―11 明治学院
埼玉大 14―11 成蹊
埼玉大 8―3 千葉商大
東京理科大 17―16 成蹊
一橋 25―8 明治学院
東京経大 13―11 横浜市大
東京経大 22―3 明治学院
横浜市大 26―10 埼玉大
一橋 18―10 東京理科大
千葉商大 22―15 成蹊
横浜市大 22―9 成蹊
東京経大 17―12 東京理科大
千葉商大 22―12 明治学院
一橋 26―10 埼玉大
東京経大 23―7 埼玉大
横浜市大 25―25 明治学院
千葉商大 17―8 東京理科大
横浜市大 19―14 千葉商大
明治学院 26―16 成蹊
東京経大 24―18 一橋

【順位】①東京経大7戦全勝②一橋6勝1敗③横浜市大4勝3敗④埼玉大・東京理科大3勝1分3敗⑥千葉商大3勝4敗⑦明治学院1勝6敗⑧成蹊7敗

▽同6部A組
神奈川大 22―10 亜細亜
都立大 25―11 独協
農工大 21―16 拓殖
神奈川大 13―8 都立大
農工大 25―11 独協
東京農大 28―18 独協
都立大 16―12 亜細亜
神奈川大 19―9 拓殖
拓殖 不戦勝 東京農大
神奈川大 16―9 農工大

独　協 17—12 亜細亜
東京農大 20—11 都立大
都立大 22—18 拓　殖
農工大 18—12 亜細亜
神奈川大 12—7 東京農大
都立大 11—8 農工大
東京農大 18—17 亜細亜
拓　殖 18—16 独　協
東京農大 18—12 農工大
神奈川大 29—10 独　協
拓　殖 18—14 亜細亜
【A組順位】①神奈川大②都立大③東京農大④農工大⑤拓殖⑥独協⑦亜細亜（＝通算13位扱い）
▽同B組
都留文化 27—5 和　光
都留文化 15—12 横浜国大
創　価 14—8 東京工芸大
山梨大 不戦勝 和　光
創　価 不戦勝 和　光
都留文化 23—12 東京工芸
東京工芸 14—8 和　光
横浜国大 21—14 創　価
都留文化 21—14 山梨大
横浜国大 25—8 山梨大
横浜国大 18—8 東京工芸大
都留文化 26—21 創　価
山梨大 9—8 東京工芸大
創　価 30—7 山梨大
横浜国大 24—8 和　光
【B組順位】①都留文化②横浜国大③創価④山梨大⑤東京工芸大⑥和光
▽同・11～12位決定戦
和　光 18—15 独　協
▽同・9～10位決定戦
拓　殖 16—10 東京工芸大
▽同・7～8位決定戦
山梨大　　農工大
▽同・5～6位決定戦
創　価 27—15 東京農大
▽同・3～4位決定戦
横浜国大 16—13 都立大
▽同・1～2位決定戦
都留文化 18—14 神奈川

3、4部の順位

【3部】①防衛7戦全勝②横浜商大5勝2敗③関東学院4勝3敗④茨城大3勝1分3敗⑤専修・東大3勝4敗⑦駒沢2勝1分4敗⑧上智7敗
【4部】①東京工大6勝1敗（得失点差57）②東洋6勝1敗（30）③大東文化5勝2敗④千葉大4勝3敗⑤武蔵工大3勝1分3敗⑨千葉工大1勝1分5敗⑦日本工大1勝6敗⑧武蔵1勝6敗

北海道は北大、中四国は山大

北海道学生春季リーグは5月3日から5日まで行われ北大が優勝以下、室蘭工大、旭川教大、釧路教大、北見工大、北海道工大、北海学園、小樽商大の順となった。

また、中四国学生春季リーグは5月20、21日に行われ、男子1部は山口大が優勝。2位以下は広島大、愛媛大、広大福山、広島修道となり、2部は広島工大が勝った

（詳報次号）

日体、33度目の優勝

筑波2位に

関東（女子）

1部5校、2部は千葉明徳短大、法政を迎えて7校の加盟となり、4月23日から5月21日まで駒沢屋内球技場などで行われた。

1部は東京学芸大の戦力がやや低下したものの、筑波、日女体大の充実で接戦が多かった。

優勝はスピードに優る日体が快調に進んだが東女体大の奮起（1回戦）にあってもつれた。2回戦で東女体が勝てば筑波を加えた3校が同率になるところだったが、日体は8—9から藤井、坂村で逆転、2連勝33度目のタイトル獲得。筑波の2位は47年秋以来。

2部は谷田川、西野を主力に攻撃のよい茨城大が2連勝。千葉明徳短大が初参加とは思えぬ力を示し注目された。最多得点選手は1部が寺尾真知子（日体）27点、2部が21点の西野裕子（茨城大）と宇都宮千佳子（千葉大）の2人。

ベストセブンはGK大森、FP藤井、寺尾、森（以上日体）、菊池（筑波）、磯山、川波（以上東京女体）だった。

▽1部
日　体 9（5—3、4—1）4 筑　波
日　体 16（8—3、8—3）6 筑　波
東京女体 12（6—4、6—2）6 東京学芸大
東京女体 11（4—5、7—4）9 東京学芸大
東京女体 7（5—2、2—4）6 日女体
東京女体 15（8—2、7—1）3 日女体
日　体 15（7—3、8—2）5 東京学芸大
日　体 20（13—2、7—4）6 東京学芸大
筑　波 11（6—5、5—3）8 東京女体

	【東女】	得	【筑波】	得
GK	横田	0	松永	0
GK	馬場崎	0	長島	0
FP	甲斐	1	清水	0
FP	古賀	0	坂本	0
FP	水野	0	菊地	0
FP	磯山	3	野村	6
FP	川波	0	青木	1
FP	村田	2	森戸	0
FP	石橋	1	南出	4
FP	小野森	0	杉本	0
FP	藤本	1	藤岡	0
FP	浜村	0	富山	0
PT		（1）8		11（2）

筑　波 4（3—1、1—2）3 東京女体
日女体 14（2—6、12—1）7 東京学芸大
日女体 16（8—2、8—6）8 東京学芸大

	【学芸】	得	【日女】	得
GK	芳賀	0	山岸	0
GK			熊谷	0
FP	松田	5	高野	5
FP	白井	2	奥富	1
FP	渡辺	0	佐藤	0
FP	斉藤	1	小松	0
FP	高橋	0	佐々木	0
FP	山木	0	松川	0
FP	海野	0	山田	4
FP	西脇	0	池田	1
FP	茂木	0	佐瀬	2
FP			江畑	3
PT		（3）8		16（3）

日　体 14（9—4、5—8）12 日女体
日　体 12（6—3、6—4）7 日女体
筑　波 14（6—3、8—5）8 東京学芸大
筑　波 12（6—0、6—4）4 東京学芸大
筑　波 10（4—2、6—5）7 日女体
筑　波 10（3—4、7—5）9 日女体
東京女体 13（7—7、6—5）12 日　体

	【日体】	得	【東女】	得
GK	大森	0	横田	0
GK	堀田	0	馬場崎	0
FP	藤井	3	甲斐	3
FP	寺尾	4	古賀	1
FP	野部	0	水野	0
FP	森	1	磯山	3
FP	坂村	2	川波	2
FP	新原	0	酒井	0
FP	細野	0	村田	2
FP	源	1	石橋	2
FP	矢野	0	小野森	0
FP	鈴木	1	坂本	0
PT		（2）12		13（1）

日　体 10（3—5、7—4）9 東京女体

【順位】①日体7勝1敗②筑波6勝2敗③東京女体大5勝3敗④日女体大2勝6敗⑤東京学芸大8敗

千葉明徳、法政が参加

▽2部（1回戦制）
都留文化 8（4—6、4—2）8 千葉明徳短大
引き分け
千葉大 30（12—3、18—2）5 法　政
茨城大 24（10—2、14—1）3 法　政
青山学院 7（4—3、3—3）6 千葉大

青山学院　不戦勝　学習院短大
都留文化　不戦勝　学習院短大
千葉明徳短大　12（7 5－7 2）9　青山学院
法　政　不戦勝　学習院短大
茨　城　6（4 2－0 4）4　千葉明徳短大
都留文化　23（14 9－2 2）4　法　政
茨　城　不戦勝　学習院短大
都留文化　12（5 7－6 2）8　千葉大
千葉明徳短大　不戦勝　学習院短
茨城大　13（8 5－4 1）5　青山学院
千葉明徳短大　7（2 5－2 1）3　千葉大
茨城大　8（4 4－2 2）4　都留文化
千葉明徳短大　19（14 5－2 2）4　法　政
千葉大　不戦勝　学習院短大
茨城大　14（9 5－1 3）4　千葉大
都留文化　17（8 9－3 7）10　青山学院
青山学院　18（9 9－3 1）4　法　政

【順位】①茨城大6戦全勝②都留文化・千葉明徳短大4勝1分1敗④青山学院3勝3敗⑤千葉大2勝4敗⑥法政1勝5敗⑦学習院女短大6敗

（注）関東学連は、今季も女子の1・2部入れ替え戦を行わないことに決めた。2部のレベルアップもあり、今秋以降は前向きに検討される。

名城が3シーズン連続

東海

4月16日から24日まで名古屋の愛知県体育館、愛知教大体育館に男子1～3部17校、女子3校が集まり、全日程をインドアで消化した。

46年秋以来11シーズンぶりで3部制となった男子は、名城が予想どおり圧倒的な強みを示し、毎シーズンはげしいせり合いとなる中京戦も一方的な展開で完勝、3シーズン連続全勝優勝、通算5度目のタイトル獲得となった。

3位争いは各校に決め手がなく3校が2勝3敗で並び、得失点差（マイナス）で順位が決定、1部返り咲きの静岡大は力及ばなかった。

2部は愛大豊橋が失点48という守りの強さで全勝、通算4度目（41年春の愛大を含む）の優勝、久々の3部は復活した名古屋市立大と愛知医大の新加盟による5校で争われ、中部工大が勝った。

女子は南山の不参加から3校による3試合だけという淋しさ。中京がまずまずのできで2シーズン連続19度目の優勝を決めた。

▽男子1部
中　京　26（11 15－7 3）10　名　大
名　城　35（16 19－3 4）7　静岡大
愛知教大　24（13 11－7 9）16　岐阜大
中　市　36（16 20－4 8）12　岐阜大
名　城　42（21 21－3 4）7　愛知教大
名　大　19（6 13－4 1）5　静岡大
中　京　18（10 8－8 9）17　愛知教大
岐阜大　15（6 9－7 7）14　静岡大
名　城　28（14 14－6 1）7　名　大
名　大　22（9 13－8 3）11　愛知教大
中　京　32（16 16－2 1）3　静岡大
名　城　39（16 23－3 1）4　岐阜大
岐阜大　16（8 8－5 7）12　名　大
愛知教大　30（16 14－6 3）9　静岡大
名　城　20（14 6－4 1）5　中　京

【順位】①名城5戦5勝②中京4勝1敗③名大2勝3敗（得失点差マイナス16）④愛知教大2勝3敗（マイナス18）⑤岐阜大2勝3敗（マイナス62）⑥静岡大5敗

▽同2部
南　山　21－11　名工大
名古屋学院　19－10　滋賀大
愛大豊橋　25－5　愛知学院
南　山　23－7　愛知学院
名工大　13（分）13　名古屋学院
愛大豊橋　15－12　滋賀大
名古屋学院　17－13　愛知学院
愛大豊橋　18－12　南　山
名工大　16－9　滋賀大
南　山　16（分）16　名古屋学院
愛大豊橋　14－7　名工大
滋賀大　10（分）10　愛知学院
愛大豊橋　20－12　名古屋学院
名工大　18－15　愛知学院
南　山　17－8　滋賀大

【順位】①愛知大豊橋5戦全勝②南山3勝1分1敗③名古屋学院・名古屋工大2勝1分2敗⑤愛知学院1分4敗（得失点差マイナス43）⑥滋賀大1分4敗（マイナス28）

▽同3部
三重大　45－10　名市大
愛知医大　34－10　名市大
愛大名古屋　23－15　愛知医大
中部工大　16－12　三重大
中部工大　27－9　名市大
愛大名古屋　21－20　三重大
愛大名古屋　31－2　名市大
中部工大　30－7　愛知医大
中部工大　18－14　愛大名古屋
三重大　24－15　愛知医大

【順位】①中部工大4戦全勝②愛知大名古屋3勝1敗③三重大2戦2敗④愛知医科大1勝3敗⑤名古屋市立大4敗

中京、後半に威力示す

▽女子
中京女　12（8 4－4 1）5　愛知教大
中　京　20（12 8－3 5）8　愛知教大
中　京　17（10 7－3 7）10　中京女

【順位】①中京②中京女③愛知教大

京都産大、宿願の初優勝

関西学生春季リーグは、5月15日全日程を終了したが、注目の1部男子（7校）は、最終戦で顔を合わせた京都産大×大体大の勝者が優勝という、ここ数シーズン同じ展開になったが、前評判の高かった京都産大が前半から好調に試合を進め18－9で快勝、43年春加盟以来、宿願の初優勝を遂げた。大阪体大の11連覇はならなかった

3位以下の順位は同志社、大阪経大、大阪大、近大、京都教大。

女子（5校）も全勝同士の武庫川女大×大阪体大に優勝がかけられたが、武庫川が前半の優位をキープして4シーズン連続6度目の優勝を決めた。

（詳報次号）

アジア選手権 優勝リポート

（カラフルな旗で彩られた初のアジア選手権開会式）

日本、「国際経験」で優る

中井　武三

ナショナルチームが国外において、初めて優勝したアジア大会。出場するまでには、単独チームかナショナルチームか等いろいろな問題があり、ほんとうに日本が参加するのかどうかもあやぶまれた大会であり、出場するにあたっては、クウェート国内の情況、中近東の政治不安等我々選手にとってはあまりすっきりしない大会でもあった。しかし、クウェートに入国してからは、このような不安もけしとび、毎日"優雅な生活"ができた。

参加チームは、すでにごぞんじのとおり、日本、中国、韓国、そしてアラブ諸国六チームで初めてのアジアチャンピォンを決すべく連日大声援の中、試合は行なわれた。とりわけ、地元クウェート、パレスチナ、韓国の応援者が多くその国々の応援風景が印象的であった。日本の応援団は、在日学校（小・中）生徒八〇名がネジリはちまきよろしく二組にわかれ、連日のどをからし三・三・七拍子の大声援。おかげで初優勝を遂げることができた。

大会前、われわれは、中国を非常にマークしていたわけであるがこれは以前に日本チームが完敗をきっしていることに原因していたしかし、試合、練習等を見ているうちに「中国とるにたらず」というムードがチームの中に生まれたすなわち、中国選手はヨーロッパスタイルのハンドボールを採りいれ、スマートではあったが、個人々々の秀れたシュート力馬力を活かすだけの戦術に乏しいとみられた。

特にフォーメーションに入ってからは、単調で、恵れた体躯をいかしきれていないのが現状であった。数多くヨーロッパ諸国と戦っている日本にとってこれならば、組みしやすいわけである。思惑どうり準決勝において、前半にて勝敗が決まりほっと胸をなでおろした。しかし、近い将来はかならず日本の強敵になりうるものをもっている。今回の楽勝で気を休めてはなるまい。

韓国は、日本にかならず勝つといういきごみで参加したと聞く。四月のジュニア世界大会参加を中止してまでの出場であり、そのいきごみはなみたいていではなかった。しかし、選手の顔ぶれを見たとき全員が従来から知っている者ばかりで、これは問題ないという感じがした。会場がグランド（アウトドア）ということだけが少し気にかかったが、最初のうちこそ韓国の闘志にたじろいたものの、しだいに日本の闘志も盛りあがり中国戦同様前半にて勝敗をつけることができた。今回の日本の勝因の第一に、これまでの国際キャリアをあげてよいと思う。

アラブ諸国は、まだ球歴も浅く技術的には何も得るところがないただ馬力は日本人にないすばらしいものをもっている。今後の普及に注目したい。

審判技術はまだ低く、とくにチャージングとオーバーステップの判定には戸惑わされた。今までの国際試合では、あきらかにチャージングとわかるプレーがそのようにはとられず、この判定を活かしたアラブ諸国の突進力には恐怖すら感じた。こうなったらその対策をたてねば負けだ。早めに詰めてシュートチャンスを与えないことを徹底し、成功した。

それにしてもチャージぎみのシュートを防ぎながら、どう判定されるのか、再三PTをとられたのにはうんざりした。また、オーバーステップの判定もひどかった。

単独速攻でシュートを射つとほとんど「オーバーステップ」とくるのだから、おこるよりただただあきれるばかり。

ところで今回初優勝した陰には日本チームの世話人バッサム、マハメドという両氏の懇切親身な世話があった。

お二人とも非常な親日家で、ほんとうによくめんどうを見てくれた。大会後にはバッサム氏の海辺の別荘へ一日招待してくれるほどであった。

最後に、今回クウェートにおいて何不自由なく生活し試合に望めたのは、日本大使館、日本人会の人たちの心あたたまる歓迎があったればこそであった。

クウェートの食事があわなくて下痢をしている時、又試合の当日にはかならず日本食の差し入れを行なっていただき、どれほど元気づけられたことか。全員で「なんだか国体に来ているみたいだな」と話したほどであった。

無事、当初の目的を達成することができ、全員胸をはって帰国したわけだが、今後の中国、アラブ諸国の進境によっては、"今日の地位"もあやぶまれてくる。

若い人たちの抬頭なくして、将来の日本ハンドボールの発展はありえない。

アジアの王座を守りつづけ、世界の上位へ進出するためにも、若手の進出と奮起を期待してやまない。

（FP、大同特殊鋼）

いつまでも金メダルを

花輪　博

今回、第1回アジアハンドボール大会において、輝く金メダルを獲得できたことは、わが生涯において、大きな自信となりました。

また、この時期にプレーができたことは、本当にラッキーであったと思います。

この大会は、何カ国のどんな特徴のチームが出場するのかクウェートに到着するまでわかりませんでした。まして今まで先輩の方々が中国と対戦し、全敗に近い成績を残していると聞き、その不安は除き切れないものがありました。

体格的にも日本よりすぐれ、また、力強さもある中国に日本は勝ちわしたものの、これから先、常に中国に苦戦を強いられるのは必至のような気がします。

また、一点差で韓国に涙をのんだ中国は、私の目からすれば、実力的には上回っていたような気がします

出発前、空港で、林副会長から、アジアにおける日本の立場は何事においても注目されている。この意味においても、みなさんも注目される人としてはずかしくない行動をとってほしいという言葉をいただきました。

また、クウェートに刻着してもオリンピックに出場した日本チームということで、いろいろ注目されていたようでした。

その意味においても、金メダルを獲得できたことは非常に感激しています。責任をはたしたような気がします。

これから先、この大会も引き続き開催されると思いますが、第1回のこの金メダルを礎として連勝記録をのばしていただきたいし、またのばしていただきたいと後から続くプレーヤーにお願いしたいと思います。（FP・大同特殊鋼）

決勝を前に韓国チームとの記念撮影．スタンドの肖像画はクウエート皇太子．と国王（元首）のもの

目指そう「世界の金メダル」

斉藤　幸司

クウェートで開催された。第1回アジアハンドボール大会において、全日本の一員として初遠征の機会を与えてくれただけでなく、最高の名誉である優勝を手にする事ができ、そしてそのチームの一員として表彰台で金メダルを受ける事ができ、大変光栄に思っています。私達が優勝できたのは、技術はもちろんのこと、チームの団結「和」を大切にしてプレーする事を忘れなかった事が勝利につながったのだと、確心します。そしてその後ろには、たくさんの応援の人々がいた事も、忘れてはいけない事です。

この大会には、九か国のチームが参加し、白熱したゲームが展開されました。サウジアラビア・クウェート・バレスチナ・イラン・バーレンのアラブ諸国は、予想以上に、ヨーロッパに近いハンドボールをしている事に驚きの目をみはりましたが、攻防においてはもう一歩で、まだパワーだけに頼りすぎ粗暴な面が目立ちました。その中で準決勝にあたった中国は身長・体重・の大きさ、重さからくるパワーは私達以上のものがありました。ただ経験と気力（精神力）の不足が目立ち、前半の点差につながったのだと思います。しかし近い将来中国が日本の大きな敵となる事はまちがいないでしょう。アジアで一位という、優勝の金メダルは、その喜びの重みと共に、世界にはばたく第一歩としての責任の重みとなり、いっそう努力をしていかなければと痛感しましたまだまだ世界への道は厳しく、険しい道のりですが、この一歩を踏み台にして、少しでも、世界の最高レベルに近づくよう、努力していきたいと思います。（大崎電気）

秀れた体格、若さの中国

藤中憲二

決勝トーナメント1回戦（準決勝）の対戦相手は中国であった。

私は、この試合が事実上の優勝戦と思っていた。

前日（予選リーグ）の韓国×中国戦を観て、ある程度のチーム力は判っていたが、やはり〝中国〟という名を聞いただけで、未知による不安を感じないわけにはいかず、緊張して試合に臨んだ。

現在の日本のナショナルチームも平均身長や体重も、いちぢに比べかなり増したが、中国は日本よりもさらに身長で2～3㎝、体重で4～5㎏多いと思われた。

ただ、安心していたのは、もし接戦になった場合、中国は平均年令22～23才と若いだけに、我々が有利に試合を導け、勝てると思った。

しかし、逆に中国を波にのせてしまったなら、その若さが逆に流れを急なものとし、恐いと思い、前半に勝負をかけた。

日本はディフェンス、オフェンスともに闘志をむきだしにし、コートを日本選手が占領した。

私自身、アジアの覇者・日本と自覚し、胸中に期するものがあり燃えた。

前半は15—6、日本のよいプレーが随所に出、申し分ない出来であった。

だが、後半は、大量リードのためか、全員の闘志がうすれ、この10分間だけをとれば11—13でおくれをとった。

これは日本がダブルポストの攻撃が小さくなったのも一因である

日本×中国戦，日本は後半，中国の攻撃に苦しんだ

試合は26—19で勝ったものの、若さにあふれ、体格に恵まれた中国は、これからアジア地域で日本の強敵になることはまちがいない

私は、11年前に中国と日本の試合をいちど見たことがあるが、その時、私の脳裏に残ったものは、中国のジャンプ力を活かした空間プレーであった。

今回も中国は空間プレーをかなり多用していたが、審判にラインクロスをとられていたため、苦しいゲーム展開であったのではないかと推測した。

もし、この空間プレーが活きていたら、日本もかなり苦しかったのではなかろうか。

（FP・大同特殊鋼）

アジアのGK、中国の技術

本田洋

GKはチームのシュート力、シュート技術に対応してディフェンスはオフェンスの攻撃展開、シュート力に対応して、またディフェンスとGKのコンビネーションでもってオフェンスに対抗するなどチームのオフェンス、ディフェンス、GKの技術は関連して発展するものです

今大会での各国GKについては各国のハンドボール技術の特徴とそこから生まれているGKを観察と推察によって、特に中国のGKについて報告します。

中国のジャンプシュートは直線的な走り込みと体格にまかせて、中国特有のしなやかさとジャンプ力を生かしたサージャント的なジャンプをし、ヒジ、手首のスナップを効かせて放つシュートはヨーロッパスタイルであった。

サイドシュートについても、しなやかさ、ジャンプ力を生かしたプロンジョンシュート、浮かしシュートがあり、またアンダーシュートについては、しなやかさと手首の強さを充分に発揮していた。

ステップシュートではキャッチ即シュートというモーションでシュートする選手がいた。

しかし、シュート体勢に入ってからの動きでは、日本選手がヨーロッパの体格の優れたディフェンスを前にしてシュートする時のように、ディフェンスをかわすべく位置の変化をしてディフェンスとGKのコンビネーションを崩し、ブラインドへシュートするというような技術を心得ていないようでした。

中国のディフェンスは体格があるが詰めが弱く、肉体接触が少なく、シュートさせて、GKに取らせるというような、シュートコースの半分を徹底して守り、ディフェンスとGKとのコンビネーションを利用して、チームディフェンス体型を形づくり、オフェンスの攻めを方向づけさせて守るという技術が見られず、バスケットボール的マンツーマンといってよい程のディフェンスを行っていた。

特に、1・5体型では5人がエリア近くに位置し、0・6体型では中央4人がエリアより2mも前に出て守るという場面があった。

これには、アジア大会を控えてのチーム編成が急いで作られたために高度なチームコンディションまで出来上らなかったのか、それを中国ハンドボールが近代ハンドボールへの指導体系を確立されていないのか、の両者を考えされられるが、私は後者と感じました。

さて、これらの中国選手のシュ

ーターやディフェンスからGKを推察し、観察すると、中国のGKは、体格はイエ・ジ・ヤンが約184cm、ヤ・リュウが約182cmの身長と劣らず、柔軟性、敏捷性においては日本GK陣に優るとも劣らずであった。

【写真】中国の選手は大型だ。マークする日本(白)の⑧佐々木171cm、⑪蒲生194cm、④中井180、⑦花輪177cm、③藤中178cm

構えや捕球動作はヨーロッパスタイルで、手足をひろげ、伸ばし飛びつこうとする型で、ノーマークシュートに対しては、GKにぶつけさせるか、ゴールの外へシュートさせようと前へ飛び出してくる。

ゴールに向かって直線的な走りで来るシューターに対しては強かったが、ディフェンス前からシュートしようとするシューターが位置を変化させてブラインドコースへ放つシュートや、ブラインドコースを利用しての近目へのシュートに対しては、ディフェンスがかわされているにもかかわらず、それを予測した位置どり、構えができていなかった。外国との経験不足か?。

GK技術の最大なるものは自陣ディフェンスからの信頼をうけることにある。

そのためには、正確な捕球とディフェンス不利なピンチの時のキーピングにあるが、予測すべき位置どりがなされていなかったことと、的確なコンビネーションを計ろうと働きかけなかったところから推察し、GK技術は日本、韓国に劣るものと私は感じました。

ボール出しについては、中国の速攻は縦にオープンに走るため、GKよりのワンパスに頼られるがタイミングが遅れたり、カットを狙われた場合の継なぎの者への、的確な、そして正確なパスがされていなかった。

韓国のGK（李錦求、金永年）は、構えかた、捕球時の手足の使いかた、位置のとりかた、すべて日本から学んだといってよいほど〃日本人的〃で、クロス多用の速攻をするため、ボール出しは継なぎの者に敏速かつ的確にパスされていた。体格は日本より劣る（李＝178cm、金＝180cm）。

クウェート、イラク、サウジアラビア、バーレーン、アラブ首長国連邦、パレスチナのGKは、ヨーロッパでしたが、体格は日本より劣り、ボール出しは無理にワンパスを出すことが多く、パスミスが多かったが、その中で、イラクのGKヤド・ハミエドが、もっともヨーロッパ的な良さを発揮していた。

体格の順は日本、中国、韓国、そしてアラブ諸国（180cm以下）でした。（GK・大阪イーグルス）

初めての海外遠征・中本　満明

誰もが一度は夢に見る全日本チームに入り一ケ月、初のアジア選手権遠征に参加できたことはとてもラッキーであった。

参加にあたっては、まずチームにとけ込む事が第一だと僕なりに一生懸命であった。二回の合宿でどうにかチームの雰囲気になじめ、羽田を発つ時には胸をときめかし、ある程度の抱負も心の中にあった。

しかし、長時間の飛行機ではりつめていた体がまいてしまい、いきなり、海外遠征のきびしさを味わされた。

クウェートに着いたあと一週間ぐらいは、時差・気候・食事の相違で体調をくずしてしまった心配していた食事はクウェート駐在の大使および日本人会の人たちの好意で日本食を食べる事ができたので、どれだけ助かったことか。これで元気づいた。

サウジアラビアと第一戦の後半監督の指示でコートに入った。僕にとっても忘れることのできない第一戦だ。少しあがっていたのか思うように体が動かずとまどったが、先輩たちの指示を受けながら時間と共に自分を取りもどした。

二戦、三戦となれるにしたがい、相手チームを観察することもできた。アラブ諸国の攻守はまだまだおくれているという感じであった。攻撃にしても、ただボールをまわしながら、中へ中へと切り込むパターンだけ、防ぎようも形になってないようだった。

第四戦は準決勝。日本が出発前からもっとも警戒していた中国と戦かった、立ち上がり固さが見えたがしだいにペースをとりもどした。だが後半は気合がゆるみ、動きがにぶり苦戦した。

全員始めて見た中国チーム。身長面からは、はるかに日本を上廻っていたが、プレーがまだ若く、対外試合の経験が少ないため、チームプレーがすっきりしなかった。

決勝の相手、韓国には過去の対戦で自信を持っている日本はマイペースで進め楽勝。第1回アジア選手権の優勝をなしとげた。この瞬間も、嬉しかったが閉会式で、金メダルを首にさげてもらった時は最高の気持ちであった。初遠征金メダル。なんて幸運だろう。

この遠征に参加して監督・コーチ・諸先輩からうけた注意や指摘をかみしめ、これからも一層がんばって行きたいと思います。

（FP・大同特殊鋼）

ゆかた姿のプラカードガール

松原光三

第一回アジアハンドボール選手権大会は、砂漠と石油と灼熱の国クェートにて開催された。大会の規模としては、オリンピックや世界選手権等に比べ、若干見劣りするが、内容的には第一回アジア大会の記念すべき開催地としてハンドボール史に残るものであった。その記念すべき大会の概要、試合結果等については、個々のレポートにて別途報告があると思うので私はここで特に開会式、閉会式の模様についてお伝えすることにする。

＜開会式＞

三月二十五日午後五時。行進曲に合わせて選手入場である。チームの先頭であるプラカードガールは、それぞれの参加国の娘さんであり、自国の民族衣裳姿である。当然わがチームのアイドルは日本人で、クェート日本人学校在学中のお嬢さん。そして衣裳は言うまでもなく「ゆかた」である。行進は事前打合せで、メインに向かって「頭右!!」を行う予定が楽団の大音響と観衆の歓声で号令が伝わらずチョット失敗。しかしその他は、規律正しい律々しい行進であった。各国選手団整列のあと、まず行なわれたのが、「お祈り」？である。軍服姿の男性（軍人なのか、宗教家なのかさだかでない。）が現われ、祈り—念仏を唱えた。これはこの種の催しには必ず行なわれる儀式で、大会の成功と安全を期した祈りであるとのこと、次に、大会委員長および来賓の挨拶と通常どおり。だがアラビア語というのか聞いてるわれわれは、チンプンカンプン、やっと英語で訳して話し、内容を理解（ほんのごく一部分だけ）。その他、体育学校の生徒による旗を使ってのマスゲームや、イギリス式近衛兵によるバブパイプのドリル演奏とかなり盛たくさんの演出であった。中でも特に注目したのは、大会旗を運ぶ兵士6人の走り方で、入場から退場まで陸上選手のもも上げの格好でまことにピシリと皆そろい、参加選手の目をみはったことを特記しておこう。

＜閉会式＞

まさに閉会式は優勝チームのために存在するかのごとく、言葉では表現できない程の感激的シーンであった。

従来、海外の大会では常に脇役であった日本チームが、アジア大会とはいえ初めて主役を演じた一瞬であった。メダル授与の際、表彰台に立つ役員、選手一人一人がまさに千両役者である。勝つことの意義、勝つことの尊さ、この時程強く感じたことはなかったことと思う。異国の地で大会の覇者となってメインポールに掲る日章旗を見たとき、日の丸の赤の美しかったこと、今後もこの体験を半永久的に日本チームが継続できるよう努力したいものである。

最後にこの大会、日本チーム優勝ということで終止符をうったが役員選手の力はもとよりクェートに滞在する日本人応援団のバックアップの大きかったことを記してお礼としたい。

（FP・大同特殊鋼）

全日本、勝率40%台に

アジア選手権の終了によって日本男子の公式国際試合（7人制）は91試合となり、成績は38勝4分49敗（勝率44%）。

モントリオールオリンピックのカナダ戦から8連勝をつづけている。50年9月のカナダ戦から51年4月のイスラエル戦までにマークした8連勝とタイ。

個人記録では、出場回数が木野（湧永）の71をトップに、本田（イーグルス）64、藤中（大同）57、中井（大同）56、飯田（大崎）43、佐藤（本田）39、蒲生（大同）38、花輪（大同）36など。（木野、飯田は今回不参加）。

通算得点は木野221、藤中166、佐藤163、中井112、近森（現三陽商会監督、39試合）102がベスト5。

（本誌調べ）

韓国、バーレーンを指導か

日本協会が最近得た情報によると、韓国の若手コーチ（氏名など判らず）が、このほどバーレーンに招かれて、同国ハンドボール界を指導するという。

バーレーンは、アジア選手権に初参加、韓国は大会終了後、バーレーンに立ち寄って親善試合を行っている。

□……前号から掲載のアジア選手権リポートは本号で終了します。

荒川氏らアジア委員会へ

日本協会は、4月23日東京で開いた常務理事会で、かねてからIHF（国際ハンドボール連盟）を通じ要請されていたアジア地域コミッションへの派遣役員について協議、次の三氏を決めた。

アジア・コミッションが、今後どのように組織され、活動していくかは、いまのところ不明確である。

▽執行委員会　荒川清美（理事長）▽ルール・レフェリー委員会　安藤純光（競技委員長）▽コーチ委員会　渡辺慶寿（強化委員長）

◇国際審判員によるアジア選手権リポート

国際公認審判員　安藤　純光

◇意義あるアジアの初大会

ＩＨＦ(国際ハンドボール連盟)は、各大陸の連盟の結成を認めアジアについては当初二つの地域に分けて連盟を結成することを目論んだ。

しかし昨年1月クウェーにおける会議において「アジアは一つ」とするアジアハンドボール連盟(ＡＨＦ)が結成された。

これらの経過については、機関誌などを通じて諸氏のよく知るところである。

今回のアジア・ハンドボール選手権大会は、ＡＨＦが結成されて初の選手権大会であり、大きな意義をもつ大会であったといえる。

参加九カ国の中には、ＩＨＦに未加盟の国もあったが、予想していた以上の国が集まり盛会となった。

ホスト国であるクウェートハンドボール協会は、日本の参加を高く評価して「日本チームの参加はこの大会をより一層盛りなげるものである」と表現していた。

◇クウェートの自然、環境、宿舎など

クウェートは、日本の岩手県と同じくらいの大きさの国で、人口は100万人、このうち35万人がクウェート人で、あとの65万人は外国人である、と聞いた。

砂漠の中にできた都市であり、産物は石油、生活物資のほとんどが輸入品という。

町にはわずかではあるが緑が見られ、この緑を育てるためには大変な苦労をしているようである。

すこし町を出ると地平線の見える砂漠が拡がっている。

その広い砂漠の中に舗装された大きな道路が真直にどこまでも続いている。

交通機関は自動車で、アメリカ製の日本でいう大型車が100キロから120キロのスピードで走っている

これらにまじって日本産の自動車の数も多い。産油国であり、ガソリンも安い(1リットル15円)。

反面、水資源が乏しいため、水は海水を吸いあげて真水に精製しており1リットル120円ぐらいとのことであった。

気温は日中では、すでに日本の夏を思わせたが、夜になると上衣が欲しくなる。

市の中心から自動車で20分ほど走ったアラビア湾の波の打ちよせる海岸に面したミッシェラービーチホテルが、全チーム及び役員の宿舎にあてられた。

このホテルは建設されて間もないとのことで、きれいなリゾートホテルであった。

各ルームにテレビ、冷蔵庫、湯わかし用のヤカン(電熱式)が備えつけられていた。

食事には困った。日本食でなければ食べられない、というのではないが、アラビア料理は格別。油っこくて一日、二日ならともかく最後まで口に合うものは少なかった。

◇競技の運営について

大会開幕前夜、組織委員会幹部とレフェリー全員が会合して競技の運営について協議した。

すでに配布されていた要項に対して質疑が行われたが、その主なものは次のようなことであった。

一、「レフェリーは参加するチームと同国籍でなければならない」とあるが、参加するチームとレフェリーの国籍は同じである必要はないのではないか。

二、チームが参加していない国から来ているレフェリー(インド、シリア)にも笛を吹かせるべきかどうか。

三、技術委員会(テクニカルコミティ＝Ｔ・Ｃ)になぜクウェートが半数の4人も入るのか。

これらは、いずれもＡＨＦが未組織であるために生じる問題だ。

一時は紛糾したが、結局すでに配布されている要項をこの場で変更することは、さらに混乱を招くことになるので要項にしたがって競技を運営することになった。

レフェリーについては、チーム参加のなかったインド及びシリアのレフェリーにも担当させることでまとまった。

当然ながら、これらは、要項の作成段階における問題である。

さて、要項にしたがってＴ・Ｃの編成が行われ、クウェートからＲ・マイヨフ、Ｈ・アルマゼディ、Ａ・アルカサール、Ｓ・アルマゼディの4名、そして参加国からＳ・アブドル・アジズ(サウジアラビア)、Ｅ・ヤワド(イラク)、Ａ・アリ・アラリ(バーレーン)、安藤の4名、計8名が選出された。

委員会は、毎夜8時30分に開催され、その日の競技について意見を交換し、翌日の競技のレフェリー団(試合管理責任者、2名のレフェリー、スコアラー、タイムキーパーの5名)を決定した。

委員すべてがレフェリーであり二重の人格をもつことによって生ずる支障は、毎夜大なり小なり繰り返された。

将来の問題としてＴ・Ｃとレフェリーとは分離して存在すべきであろう。

◇大会の運営

大会は国家予算によって運営され、豊富な役員を配置し、スムースな運営ぶりであった。

輸送、救護、警備などについても万全が期されていた。

特に警備については、会場に多くの警察官が配置され、選手団の会場への往復にはパトロールカーが随行するなど、日本ではとても考えられないほどの気の使いようであった。

以上、いくつかの報告と重複するであろうところをさけて、感想をまじえて述べたが、あえて私からも報告しておかなければならないことは、高橋大使ご夫妻をはじめ日本大使館の皆さんの献身的なで支援と、日本人会、日本人学校の先生、生徒の絶大な応援があったことである。我々にも選手たちにも大きな力となった。

総じて、誕生間もない、そして未組織のＡＨＦが主催した第1回大会は、出発前の不安を除けば機関誌前号で、竹野監督がいっているように成功のうちに運営され、終幕したといえるであろう。

しかし、今後の課題がないわけではない。

ＡＨＦの組織を確立し活発に活動することによって多くの問題が解決されなければならない。

ＩＨＦ事務総長のいう「アジア全般の審判技術のレベルの低さ」

（機関誌前号）などは、早急に解決されなければならない問題である。（法大ＯＢ、日本協会常務理事～競技委員長、審判委員長～）

国際公認審判員

岡前　義春

◇不安から期待へ

3月26日から4月4日までクウェートで開かれた第1回アジア選手権は、出発前、参加国数も、競技スケジュールも不明で、期待半分、不安半分でしたが、北京―テヘラン―アバダンを経て24日夜クウェート空港に着いた時から、クウェート協会のあたたかい歓迎をうけて、それまでの不安が一切けしとび、アラビア海の潮風に吹かれる海辺の宿舎・ミッシェラービッチホテルに着いて日本語で書かれた「日本ハンドボールチーム歓迎」の文字をみて、すべての気持ちは、期待でいっぱいとなりました。

クウェート×パレスチナ戦を担当する安藤（左）岡前両審判員

参加国は、すでにご承知の9カ国、試合方法は、かつての世界選手権法式ともいうべき二組の予選リーグのあと、各組1位、2位による決勝トーナメントと判り、毎日2～3試合の日程ということも明きらかになりました。

大会に対する心配はこれで一通りなくなったのですが、アラビア地方独得の油っこい食事が、次の悩みとなり数日後には、体調をくずす日本選手もありましたが日本大使館の高橋大使ご夫妻をはじめ館員のかたがた、日本人会の皆様によって毎試合日の昼食におにぎり、五目ずし、焼肉、お煮しめ、麦茶など日本食のさしいれがあり、この真心のこもったご支援に接して、チームはもとより、私ども審判員も感激するとともに全員一丸となって、優勝の栄を得てこのご恩に報いる気持ちとなったものです。

そのうえ、ゲームのある日には早々と正面スタンドに日本人学校の先生がた、幼稚園から小、中学生約80名が日の丸の小旗を振り、笛や太鼓、扇子をもって大声援、チームを元気づけてくれた姿には思わず目がしらが熱くなる思いでした。

さて、アジア地域各国のレフェリング技術や、大会運営面につき印象を書きとめ、ご報告に代えようと思います。

ともかく、アジアで初の大会とあっては、多くを望むこと自体がムリかもしれませんが、大会運行の柱となるべきテクニカル・コミティ（技術委員会）が、各国選手団に同行したレフェリーから選ばれた者で構成されたのは大きな問題でした。

この委員会がレフェリーの割当て、抗議の処理を行うのですから合点のいかぬことも多く、当然のことながらＡＨＦ（アジアハンドボール連盟）内に制度化されたコミティが置かれてしかるべきでした。

◇ひと昔前のレフェリング

安藤氏と私のペアは、26日開会式直後のいわゆるオープニングゲーム・クウェート対サウジアラビア戦のレフェリーをまず割りあてられ、盛大な開会式（本誌○頁カット写真参照）の余韻が消えぬなか。対戦両国の国歌の吹奏のあとレフェリーの国歌まで吹奏されたことは感激的なできごとでした。

アラブ諸国のレフェリーについては、もちろん今回初めて見たわけですが、世界のレベルからみると物足りなく、なにか一昔前のレフェリングに接しているような印象さえありました。

プレイヤーもやりにくそうで、一瞬とまどう場面もしばしばでした。

レフェリングが粗雑であれば、当然、プレーも荒くなり、ラグビーのゲームを思わせるプレーさえ見られる状態でした。

アラブ諸国のレフェリーに共通していた判定は、シュート時の反則についてのもので、完全にシュートが防御の前でなされていても身体接触が例え小さくてもあったか、どうかと思われる時はフリースローが課せられ、オフェンス有利の笛が多かった。

これには、〝国際感覚〟に染まった日本チームは、ずいぶん悩まされ、苦しんだようです。

ペナルティ・スローの判定も、反則のあと、完全にシュート態勢になるべき時にも笛となり、ペナルティが判定されて中断、基準の不明確も目につきました。

速攻の時のステップに対してオーバーステップとみるレフェリーが多く、これまた日本選手を嘆かせていた。

跳びこみシュートの着地後、タイミングを少し遅らせてのシュートも、ほとんどラインクロスの判定となり、単独速攻の場面で、まだボールの操作が可能な状態でありながら、反則されると、ゲームを止め、警告を与えフリースローとするなど、せっかくのスピーディな展開を、レフェリングの拙さで寸断するケースが多かったのは残念な限りでした。

◇厳然たる審判態度

レフェリーの判定について、不満な動作には容しゃなく、厳重に警告が与えられています。

言葉が通じ合わない点もありますが、ゲーム中、大きな声を出したりした時も警告が与えられ、レフェリーが権威をもってゲームの運行に当たっていました。

プッシング(両手押し)に対する判定も極めて厳しいものがあり、日本でまあまあといったプレイヤーのマナーにも、的確なジャッジをしていたことは、国内でも再考すべきであり、見習うべきことと思ったものです。（日体大ＯＢ）

Wakunaga Hiroshima

ヨーロッパ遠征をふりかえって

湧永薬品ＦＰ兼コーチ
木　野　　実
（ミュンヘン・モントリオール両オリンピック代表選手・立大出）

□初めての単独遠征□

　以前からいちどは、と考えていた計画が、湧永社長はじめ社員の絶大なる理解と援助によって実現とはいうものの、どこから手をつけてよいか解らない状態での〝出発点〟でした。

　ヨーロッパの年間スケジュールは、ほぼ2年先まで組まれておりその中に食いこんでいくことは大変なこと、この点が我々とのいちばん〝困ったこと〟でした。

　しかし、多くのかたのご支援でどうにか、旅程と相手スケジュールとの調整がとれ、当初7～8試合の予定が10試合に増え、多少余裕のない遠征になってしまったものの、各国の受け入れは万事よくしていただき、大歓迎をうけ感激でした。

　特にいえることは、各国とも協会の受けいれというより、クラブ単独もしくは各地方（地域）協会が中心になってくれたことです。

　ゲーム後は必ずレセプションを開いていただき、日本に来たユーゴのGKアルスラナジッチ、今なほお健在の憧れのルブキング（ともに西ドイツ・ネッテルスタット）とも再会、旧交を暖かめられました。充分、各地で〝親善〟の役割を果たせたと思います。

　更に、各クラブの組織、実情についても詳しく聞く機会が得られ参考になりました。

　日本の企業中心のクラブ組織とのちがいを説明しても、全く理解できないらしく、けげんそうな顔をしていました。本場では最近とみに、クラブへの選手引き抜きが多く、移籍料もかなり動いているといわれます。冗談に、日本に来ないかと声をかけたら、移籍料二四〇万～四〇〇万、給料二五万円程度、そして家の保証、子供達の学校等も提示されびっくりしました。

　新聞報道はじめポスター、プログラムなどは「ワクナガ」よりも「HIROSHIMA」の字の方が大きく扱われ、はっきりとクラブ組織のちがいが感じられました。

□西独全国リーグの観戦□

　西ドイツ滞在中、幸運にも1部リーグ――ブンデス・リガを観戦する機会を得、本場の迫力を目のあたりにみて、選手一同大感激。

　OSC・ラインハウゼンのホームゲームでダアシュラークとの対戦。

　ラインハウゼンはこの時点で2位、優勝戦線に残っているとあってスタンドは超満員、通路といわず、いわず、空いているところはどこでもといった感じで、コートの中まで脚を投げだしてみている人もいました。ゲーム前から応援旗をふりかざし、ラッパ、笛を鳴らし大変な賑やかさ、地元選手は心得たもので、音楽に合わせてリズム体操、というよりはダンスで体をほぐしている様にみえました観衆も手拍子をとったりして、自ら楽しみ、コートと観客の一体感は見事というほかはなかった。

　ラインハウゼンは十名のナショナル選手を擁し（ちなみに西独は八十名のナショナル選手がリストアップされている）、個人技の秀れた選手が多い。一方のダアシュラークは、ドイツらしい流動的なハンドボールをみせてくれますこのチームには、日本にも馴染み深いユーゴのラブルニック（左腕）がいて、ゲーム前挨拶にいくと大変驚き、喜んでくれました。西ドイツのハンドボール界でユーゴ人がプレーするのは大変多いらしく特にコーチの人達が一部～三部まで指導されている様です。

　我々の感情としては、ハンドボールのメッカ・西ドイツが、そこまでしなければならないお家の事情は、判断がつきかねますが、何かさみしい気がします。

　さて、ゲームはのりにのっているラインハウセンが力強い攻撃で終始リードを奪い、とくに、サイドのラーゼルのフェントの切れ味は最高でした。両チームともボールテクニック、空間の調整力など素晴しく、一対一の攻防の強さ、きびしさを十分みせつけられ、我々は一瞬声もでないほどでした。日本としても、もっとサイド攻撃を意欲的に、目を向けるべきだと痛感しました。

　去年のモントリオール・オリンピックあたりから、世界のハンドボールは個人技を多用するケースが多く、まず自分で切り崩していくという戦法がみられます。しかしそのフェイントは、ボールをキャッチする前の動作が生きているので、フェイントのフェイントとして終らず、パスをつないでいくフェイントの使い分け、ずいしょにみせるブロックプレーも基本に忠実であるといった感じでした。

　運営的には、場内アナウンスの親切な説明もあり、観客への伝達も十分なされていた様でした。

　ラインハウゼンのもう一つの人気は身長二一五センチのG・Kのバルッケ選手(23才)です。狭いゴールに入って、むしろ自分の体がじゃまになるのではないかとへんにこちらが心配したりして、彼にその点を聞いておくべきだったと悔やまれます。

　とにかくゴールをみた瞬間、全然入る気がしなくその上、手足が良く動き、敏捷なのには関心しました。ロングシュートには強いようですが、エリア前で放つタイミングのはずしたシュートには弱い気がします。

　彼がシュートを止めたら観客の喜びは、大変なもので地元の人にとっても何とも心強い、たのもしい自慢の選手が現われたことか…

ゲームは再三、エキサイトする場面がみられ、それが組織プレーをさえきっているのではないかと思われるほどでした。しかし常に激しい攻防で、緊迫したムードがあり、ハラハラのしどうし。ぶちあたりの激しさに倒れる選手が続出し、トレーナー、ドクターが処置にあたっていたが、日本でもサッカーについで一日も早くチーム内にトレーナー及ドクターの確立を急ぐべきだと思います。他に気がついたことは、レフリータイムが日本よりかなり多いことです。それだけに一挙手、一投足の大切をひしひしと感じました。

ただ、レフリーに暴言を吐いたり、スタンドプレーがみられ、マナーの点では感心できるものではありませんでした。

結果はラインハウゼンの地力勝ちで終了後観衆がコートにどっとあふれ、あっという間に応援旗を中心に肩を組んで歌をうたったりして勝利の興奮にいつまでも酔いつづけていました。

我々はゲームが終っても、自分達がやっている以上に力が抜けてぐったりした感じでした。そして日本も、いつかはきっとこんな風になるだろうと思いつつ、しばらく選手達は腰すらあげませんでした。

□最近のヨーロッパの流れ□

特に目立ったのは、各国の攻撃時間が大変短くなっていることがあげられます。以前の様にゆっくりボール廻しをしてチャンスをうかがうということから脱皮して、より積極的に局面を切りひらいていこうということです。攻防の切りかえについても間のびがなく退屈しませんワクナガのチームも何度となく、ストーリングをとられるケースがあり、それも一回目の攻撃からとられたりしました。今回の得点をみても、両チーム合わせて60点近く入っており、お互いのディフェンスの悪さもあげられますが、何よりも攻撃時間が短く、積極的にシュートしてくるのが多いからです。以前、ソ連の国内ルールで四五秒ルールを適用しようという動きがありましたがそれに近い傾向にある様な気がいたします。

全く極端な例をあげますと、攻撃の意思なく、攻撃がつまって、ポジションを立て直す時、右サイドから左サイドまでボールをまわすだけでストーリングのケースとして考えられるわけです。

ユーゴ協会の人から、日本チームの攻撃は無駄な動きが多く、有効的じゃないという指摘をうけ、言葉の解釈のちがいもあるわけですが、大変ショックをうけました。

日本の攻撃力は、世界でも上位にランクされ、それなりの評価もされ、我々も大いに自信をもっていたのですが、ショックと同時に痛いところをつかれたという感じです。

プレオリンピック(昭50)の時から我々が考えられないようなストーリングをとられていましたが、日本チームは、ほとんどストーリングをとられても仕方ないよ、というユーゴ人の指摘は、これからの世界の流れへ、おくれてはならないといった警鐘として、十分かみしめて、それに対処していかなければならないと思います。

攻撃で目についたことは、モントリオールでみせた各国のサイド攻撃がほとんどの国で完全にマスターしていたことです。それに対するディフェンスの工夫、研究のあとがうかがえます。日本としても、今後局面々々での攻防のはげしさを日本人の特徴である早さを生かした攻撃力を身につけ、独自で開発していくことだと思います

もう一つ今回目についたことはパスゲームであると同時に、フェイントを中心とした個人技の多用です。木家西独でも、動きとパスをミックスした流れのあるハンドボールからフェントを使って切り崩していく戦法が今や主流です。日本チームがフェイントをつかってても相手のふところに入ってしまって、つかまってから、はじめてパスというのが多く、ことごとくチャンスをつぶしてしまいます。結局フェイントがマイナスになっているケースが多いわけで、そのへんをわきまえて、今後フェントとパスをつないでいく技術が必要になるのではないでしょうか。

□レベルアップするためには□

今回の遠征でも一番話題にのぼったのが、パワーのちがいです。日本人は下半身にくらべて上半身の貧弱さは外人と並んだ時に、とくにはっきり感じさせます。

骨格は筋肉を鍛えれば太くなるという相関関係もあるので、長期にわたっての体力トレーニングが必要です。我々は今迄、ハンドボールの選手に必要な筋力、体力について真剣になって考えていたのだろうか疑問です。机上の論で終ってはいなかったでしょうか。

技術も体力があってこそ、発揮できるのですから、平行してすすめていきたいものです。

今年度から高校生の春の大会がふえ、ますます体力トレーニングを含め、基礎トレーニングをする時間がさかれ、ゲーム中心の練習で、やっていかなければならない現状をみて、将来、日本のトップを支える高校生が、大学、実業団に入ってきても、本物の基礎ができている人が果して何人いるだろうかと疑問をもたざるをえないのです。

今回は二十日間で十ゲームという強行スケジュールで、後半必ずへばってくるのが目にみえてきます。その時の踏んばりが欠如しています。持久力もさることながらやはり日常の生活を通して、スポーツマンとしてどうあるべきかという心構えを考え直さなくてはいけないと思います。

タバコの喫煙にしても、今回かなり指摘され、『スポーツマン、ノウ』の言葉は痛いほどでした。

最後になりますが、もっと世界に日本チームをアピールし、うったえていくべきであり国策とはいえ、五年～十年の長期展望を打ちたて、遂行していってこそ、日本の立場も、今迄以上に理解してもらえるのではないでしょうか—。

湧永薬品単独欧州遠征成績

(昭52.3.8～3.24)

成績	対戦相手
○29—24	ユニオン・クレムス(オーストリア)
○28—17	TV・ブルール
○26—25	OSC・ラインハウゼン
●18—26	TUS・ネッテルスタット
○32—24	Tschft・セント・トーニス(以上西ドイツ)
△30—30	メタロプラスチカ・シャバッツ
○30—25	IM・ラコビッツア・ベオグラード
●22—33	ツルベナ・ズエズダ・ベオグラード(以上ユーゴスラビア)
△24—24	セシカ・ソフィア
●19—21	スポルチエスト・ソフィア

10戦5勝2分3敗

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

岩国と山陽女勝つ　中国高校

今年のブロック高校選手権のトップを切って第28回中国高校選手権が、5月8、9の両日岡山工高グランドを主会場に、男女各16チームが参加して開かれた。

男子は、予想どおり山口勢が強く、ベストフォアのうち三つを占め、決勝は岩国×下関中央工の顔合せから岩国が勝って4年ぶり2度目の優勝をとげた。山口代表の優勝は5年連続21度目。

女子も、山口勢が三校準決勝に勝ちあがったが、山陽女(広島)が固い守りで、徳山、岩国商を連破2年ぶり9度目の栄冠を獲得した広島代表の優勝は2年ぶり10度目のこと。

▽男子1回戦

岩　国　工(山)17―6飯　　南(島)
天　　城(岡)20―10倉　吉　工(鳥)
下関中央工(山)28―10松江南(島)
山　　陽(広)9―7岡　山　工(岡)
呉　　港(広)23―5松　江　工(島)
倉　吉　東(鳥)14―11水　島　工(岡)
倉　敷　工(岡)20―10境　港　工(鳥)
岩　　国(山)22―12修　　道(広)

▽同準々決勝

岩　国　工　23（10―7　13―3）10　天　　城
下関中央工　14（6―2　8―5）7　山　　陽
呉　　港　15（9―7　6―2）9　倉　吉　東
岩　　国　16（8―8　8―5）13　倉　敷　工

▽同準決勝

岩　　国　18（7―3　11―2）5　呉　　港
下関中央工　21（11―5　10―4）9　岩　国　工

▽同決勝

岩　　国　14（8―4　6―4）8　下関中央工

▽女子1回戦

徳　　山(山)13―3津　山　商(岡)
浜　　田(島)7―6第一女商(広)
山　陽　女(広)11―4西　大　寺(岡)
山口中央(山)16―5倉　吉　西(鳥)
高　　水(山)11―6天　　城(岡)
松江家政(島)11―8進　　徳(広)
松江市女(島)7―6真　　備(岡)
岩　国　商(山)12―2米　子　南(鳥)

▽同準々決勝

徳　　山　18（8―1　10―2）3　浜　　田
山　陽　女　7（4―3　3―0）3　山口中央
高　　水　20（9―4　11―3）7　松江家政
岩　国　商　21（11―4　10―3）7　松江市女

▽同準決勝

山　陽　女　4（1―2　3―0）2　徳　　山
岩　国　商　10（5―1　5―3）4　高　　水

▽同決勝

山　陽　女　4（3―1　1―2）3　岩　国　商

一般B登録について

学校OBの多いクラブチームでは、卒業生全員がクラブ員であり、多いところでは当然100名を越すのがふつうだ。しかしその中で常時出場する人は限られてくるが、それでも誰が来ても出場できるよう門戸を開放しておかなければならない。

今年度の登録制度によるとB登録にも個人登録が追加された。善意に登録しようとするクラブ担当者はどうしたらよいか迷う。愛知協会担当者に聞けば止むを得ないから一部の人だけを登録すればよいとの返事。そこで最低7名だけで登録を済ますことになる。しかしもっと真面目に考えれば内部問題を持ち込むよりも登録をしない方が間違いがない。

一般Bを登録させるという初期の目的まで見失なって、安易で無策な値上げはかえって登録チームを減らすことになりはしまいか。

再考を望む。

（愛知　T）

投書欄　あすへの提言

各地の記録

ブラザー、ジャスコに自信

第13回東海実業団選手権女子の部は5月15日名古屋市体育館に3チームが集まりリーグ戦。予想どおりブラザー工業(愛知)、ジャスコ（三重）が強く、両者の対戦に優勝がかかったがブラザーが制勝3年ぶり3度目の優勝となった。

ブラザーはことしに入ってジャスコに公式戦3連勝である。

ブラザー工業（愛知）28（15―0　13―1）1　三洋電機（岐阜）
ジャスコ（三重）29（15―4　14―1）5　三洋電機
ブラザー工業　12（7―5　5―3）8　ジャスコ

【順位】①ブラザー工業②ジャスコ③三洋電機

男子、川口北に鋭さ

▼埼玉県学徒（高校）大会（5月・川口工）

▽男子決勝リーグ

川　口　北　9―7　浦　和　南
川　口　工　18―7　大　　宮
川　口　工　11―8　浦　和　南
川　口　北　18―11　大　　宮
川　口　北　10―7　川　口　工
浦　和　南　11―5　大　　宮

【順位】①川口北②川口工③浦和南④大宮

▽女子決勝リーグ

深　谷　一　13―4　朝　　霞
川　口　北　9―3　浦　和　西
深　谷　一　9―2　浦　和　西
川　口　北　9―9　朝　　霞

◆おことわり　今月は協賛広告の切り替え整理期にあたり、一部の広告を掲載しておりません。あしからずご了承下さい。

深　谷　一　12―5　川　口　北
浦　和　西　12―4　朝　　霞

【順位】①深谷一②川口北③浦和西④朝霞

小松市女、ゆるがず

▼石川県高校春季大会（4月・金沢美大体育館）

▽男子準々決勝

小　松　工　11―8　星　　稜
県　　工　5―4　錦　　丘
小　　松　21―7　小　松　商
寺　　井　20―3　二　　水

▽同準決勝

小　松　工　19―3　県　　工
寺　　井　19―12　小　　松

▽同決勝

小　松　工　11（7―5　4―1）6　寺　　井

▽女子1回戦（3試合）

松　　任　5―4　金　沢　商
小　松　商　10―3　津　　幡
星　　稜　13―2　短　大　高

▽同準決勝

小松市女　24―0　松　　任
小　松　商　12―1　星　　稜

▽同決勝

小松市女　16（9―1　7―1）2　小　松　商

海自下総いぜん強味

▼千葉県実業団連盟創立5周年記念トーナメント（4月・三井石油化学市原体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
出光石油千葉22—5　海自館山
東電千葉　17—15　海自木更津
三井石油化学千葉　29—17　陸自下志津
海自下総　21—12　日産石油化学

▽準決勝
東電千葉　16（延）15　出光石油千葉
海自下総　19—10　三井石油化学

▽決勝
海自下総　19（7—6、12—4）10　東電千葉

徳山（女）岩国商に辛勝

▼山口県高校大会（4月・岩国工）

▽男子7・8位決定戦
防府商　15—13　宇部工

▽同5・6位決定戦
山　口　11—9　徳　山

▽同3・4位決定戦
下関中央工20—12　下関一

▽同1・2位決定戦
岩国工　9（5—5、4—3）8　岩　国

▽女子5・6位決定戦
田　部　10—6　防府商

▽同3・4位決定戦
高　水　13—6　山口中央

▽同1・2位決定戦
徳　山　4（3—2、0—1、1—0、0—0）3　岩国商

1部は中京クが優勝

▼第23回愛知クラブリーグ（3月・名古屋）＝男子のみ

▽1部
桜丘会　13—12　愛教ク
中京ク　21—10　大江ク
愛知教員　19—10　名城ク
桜丘会　28—11　大江ク
中京ク　12（分）12　愛知教員
名城ク　19—8　大江ク
愛知教員　12—10　桜丘会
中京ク　16—9　名城ク
愛教ク　19—8　大江ク
桜丘会　18—15　名城ク
中京ク　21—8　愛教ク
愛知教員　29—5　大江ク
愛教ク　13—7　名城ク
愛知教員　9—7　愛教ク
中京ク　23—6　桜丘会

【順位】①中京ク4勝1分（得失点差48）②愛知教員4勝1分(36)③桜丘会3勝2敗④愛教ク2勝3敗⑤名城ク1勝4敗⑥大江ク5敗

▽2部順位①大同ク5戦全勝②上野ク③南山ク④若宮ク⑤東山ク⑥東中ク

▽3部順位①名大ク4勝1分②名南ク③横須賀ク④愛商ク⑤佐織ク⑥愛工ク

▽4部順位①星雲ク4勝1敗②市エク③南山クB・桜田ク（同率）⑤北斗ク⑥東杏会

北川浩氏を記念する大会

▼第1回北川杯沖縄県高校トーナメント（4月・浦添高）

▽男子準々決勝
沖縄工　24—11　小　禄
首　里　20—15　西　原
浦　添　19—10　前　原
興　南　26—9　那覇工

▽同準決勝
沖縄工　15—14　首　里
興　南　17—11　浦　添

▽同決勝
興　南　15（6—8、9—4）12　沖縄工

▽女子準々決勝
前　原　6—2　知　念
浦添商　15—2　首　里
コ　ザ　5—4　興　南
浦　添　9—1　豊見城

▽同準決勝
浦添商　14—4　前　原
浦　添　9—1　コ　ザ

▽同決勝
浦　添　10（6—1、4—3）4　浦　添

一般男子は教員制す

▼第24回福井県大会（5月）

▽一般男子1回戦（2試合）
福井高専　20—12　鯖江ク
北陸電力　18—10　羽球会

▽同準決勝
光陽会　29—7　福井高専
福井教員　14—11　北陸電力

▽同決勝
福井教員　22（12—4、10—12）16　光陽会

▽高校男子準々決勝
羽　水　25—3　敦賀工
北　陸　17—9　高　志
武　生　8—7　科学技術
藤　島　12—10　若　狭

▽同準決勝
北　陸　14—11　羽　水
武　生　15—13　藤　島

▽同決勝
北　陸　21（13—7、8—3）10　武　生

▽同女子1回戦（2試合）
武生商　15—2　羽　水
藤　島　8—4　福井商

▽同準決勝
武生商　21—5　若　狭
藤　島　10—3　仁愛女

▽同決勝
武生商　17（9—0、8—2）2　藤　島

富山も教員がトップ

▼富山県春季選手権一般男子の部（5月・小杉高）

▽1回戦（1試合）
富山教員　29—15　富山大

▽準決勝
富山教員　20—15　氷見ク
H・HC　16—10　想球会

▽決勝
富山教員　29（11—9、18—10）19　H・HC

★編集後記★

□……現スタッフ（杉山、青木）による最後の発行号。これまでのご支援に感謝します。なんとか新味をと、つとめてきましたが、パッとせず残念に思っています。

次号からは新体制によって刊行されることになりますが、すでに各ブロック、各加盟団体から新編集委員が届け出られており、期待したいものです。

□……僕が、この機関誌につきあうようになって18年になります。時おり、本箱から無作為に古い号をとり出しては読むのですが、懐しさというよりも、いつも同じ調子の編集内容でアクセントがないことが気になります。本誌も新しい時代が来ないと……と思います。

□……2年前、熱心な読者の一人であった青木敬子さんが、編集を手伝いたいと申し出てくれた時は感激に似た気持ちでした。

青木さんがとび出してきてくれたことで、へたばりかけていた当時の僕は、励まされたのです。

彼女、今春から三陽商会に入社、とたんに同社ハンドボール部のマネジャーに就任しました。

□……機関誌がハンドボール・クレージイの集まりになることを祈ってます。（杉山　茂）

第1回全国クラブハンドボール静岡大会申込書

チ ー ム 名 （ ）内に所属都道府県		ユニホーム （カラー）	
男・女	（ ）	①	②

申込責任者氏名	同左連絡先住所	電話番号
印	〒	

	氏 名	年 令	勤 務 先 名	最 終 出 身 校
監督				
1 (GK)				
12 (GK)				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
13				
14				
15				

注 主将は番号に○印。監督が選手を兼ねる場合選手欄にも記入すること

切りとり線

宿 泊 申 込 書

宿泊所の斡旋を依頼します

申込責任者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

7月15日 男女 名　7月16日 男女 名　7月17日 男女 名

（7月17日閉会式は15時の予定）

※ 大会の要項は本誌16頁参照のこと

※ この用紙のコピーで申しこまれてもかまいません

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一五三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五二年五月二十五日印刷 昭和五二年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
特価 三百五十円
（年間購読料 三千三百円）